

(12)特許協力条約に基づいて公開された国際出願

(19) 世界知的所有権機関
国際事務局



(43) 国際公開日
2004 年 1 月 8 日 (08.01.2004)

PCT

(10) 国際公開番号
WO 2004/002532 A1

(51) 国際特許分類⁷: A61K 45/00, A61P
25/00, 25/14, 25/16, 25/28

(21) 国際出願番号: PCT/JP2003/008179

(22) 国際出願日: 2003 年 6 月 27 日 (27.06.2003)

(25) 国際出願の言語: 日本語

(26) 国際公開の言語: 日本語

(30) 優先権データ:
特願2002-190909 2002 年 6 月 28 日 (28.06.2002) JP
特願2002-190910 2002 年 6 月 28 日 (28.06.2002) JP

(71) 出願人 (米国を除く全ての指定国について): セレスター・レキシコ・サイエンス株式会社 (CELESTAR LEXICO-SCIENCES, INC.) [JP/JP]; 〒261-8501 千葉県

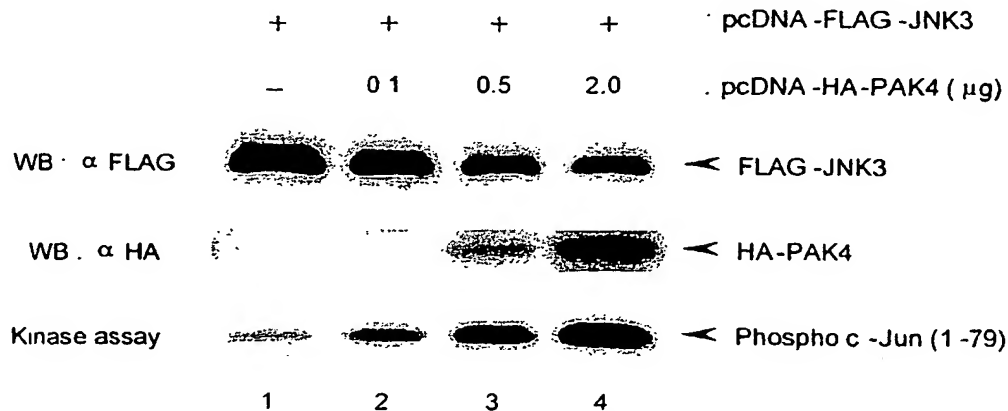
千葉市美浜区 中瀬 1 丁目 3 番地 幕張テクノガーデン D 棟 1 7 階 Chiba (JP). 第一製薬株式会社 (DAIICHI PHARMACEUTICAL CO., LTD.) [JP/JP]; 〒103-8234 東京都中央区日本橋三丁目 1 4 番 1 0 号 Tokyo (JP).

(72) 発明者; および
(75) 発明者/出願人 (米国についてのみ): 土居 洋文 (DOI, Hirofumi) [JP/JP]; 〒261-8501 千葉県 千葉市美浜区 中瀬 1 丁目 3 番地 幕張テクノガーデン D 棟 1 7 階 セレスター・レキシコ・サイエンス株式会社内 Chiba (JP). 細木 信也 (HOSOGI, Shinya) [JP/JP]; 〒261-8501 千葉県 千葉市美浜区 中瀬 1 丁目 3 番地 幕張テクノガーデン D 棟 1 7 階 セレスター・レキシコ・サイエンス株式会社内 Chiba (JP). 和田 直也 (WADA, Naoya) [JP/JP]; 〒134-8630 東京都江戸川区北葛西一丁目 1 6 番 1 3 号 第一製薬株式会社 東京研究開発センター内 Tokyo (JP).

(続葉有)

(54) Title: MKK7 ACTIVATION INHIBITOR

(54) 発明の名称: MKK7 活性化阻害剤



(57) Abstract: Proteins PAK4 and JIK each binding to MKK7 and directly phosphorylating it are found out. Thus, it is intended to provide an inhibitor of c-Jun phosphorylation by JNK3 and a method of inhibiting phosphorylation characterized in that at least one of binding of PAK4 to MKK7, phosphorylation of MKK7 by PAK4, binding of JIK to MKK7 and phosphorylation of MKK7 by JIK is inhibited; a preventive and/or a remedy for diseases based on the c-Jun phosphorylation by JNK3; and a preventive method and/or a therapeutic method. It is also intended to provide a method of identifying a compound inhibiting binding of PAK4 to MKK7, phosphorylation of MKK7 by PAK4, binding of JIK to MKK7 and phosphorylation of MKK7 by JIK; and a compound obtained by the identification method. It is further intended to provide a medicinal composition containing at least one of the above compound and the above inhibitor in an effective dose.

(57) 要約: MKK7 と結合してこれを直接リン酸化する蛋白質 PAK4 および JIK を見出し、PAK4 と MKK7 の結合、PAK4 による MKK7 のリン酸化、JIK と MKK7 の結合および JIK による MKK7 のリン酸化の少なくとも 1 つを阻害することを特徴とする JNK3 による c-Jun リン酸化阻害剤およびリン酸化阻害方法、JNK3 による c-Jun リン酸化に基づく疾患の防止剤および/または治療剤並びに防止方法および/または治療方法を提供した。さらに PAK4 と MKK7 の結合、PAK4 による MKK7 のリン酸化、JIK と MKK7 の結合または JIK による MKK7 のリン酸化を阻害する化合物の同定方法および該同定方法で得られた化合物を提供した。また、上記化合物および上記阻害剤のうち少なくとも 1 種を有効量含有してなる医薬組成物を提供した。

WO 2004/002532 A1



(74) 代理人: 庄司 隆 (SHOJI, Takashi); 〒101-0032 東京都千代田区岩本町 3 丁目 2 番 1 0 号 SN岩本町ビル 6 階 Tokyo (JP).

(81) 指定国 (国内): AE, AG, AL, AM, AT, AU, AZ, BA, BB, BG, BR, BY, BZ, CA, CH, CN, CO, CR, CU, CZ, DE, DK, DM, DZ, EC, EE, ES, FI, GB, GD, GE, GH, GM, HR, HU, ID, IL, IN, IS, JP, KE, KG, KP, KR, KZ, LC, LK, LR, LS, LT, LU, LV, MA, MD, MG, MK, MN, MW, MX, MZ, NI, NO, NZ, OM, PG, PH, PL, PT, RO, RU, SC, SD, SE, SG, SK, SL, TJ, TM, TN, TR, TT, TZ, UA, UG, US, UZ, VC, VN, YU, ZA, ZM, ZW.

(84) 指定国 (広域): ARIPO 特許 (GH, GM, KE, LS, MW, MZ, SD, SL, SZ, TZ, UG, ZM, ZW), ユーラシア特許 (AM, AZ, BY, KG, KZ, MD, RU, TJ, TM), ヨーロッパ特許 (AT, BE, BG, CH, CY, CZ, DE, DK, EE, ES, FI, FR, GB, GR, HU, IE, IT, LU, MC, NL, PT, RO, SE, SI, SK, TR), OAPI 特許 (BF, BJ, CF, CG, CI, CM, GA, GN, GQ, GW, ML, MR, NE, SN, TD, TG).

添付公開書類:

— 国際調査報告書

2 文字コード及び他の略語については、定期発行される各 PCT ガゼットの巻頭に掲載されている「コードと略語のガイダンスノート」を参照。

明細書

MKK 7 活性化阻害剤

5 技術分野

本発明は、MAPキナーゼキナーゼ7 (MKK 7) の活性化を阻害することを特徴とするc-Jun N末端キナーゼ3 (JNK 3) によるc-Junリン酸化の阻害、JNK 3によるc-Junリン酸化に基づく疾患の改善、並びに神経変性疾患の改善に関する。より詳しくは、MKK 7とp21活性化キナーゼ4 (PAK 4) の相互作用および／またはMKK 7とJNK/SAPK-インヒビトリキナーゼ (JIK) の相互作用を阻害すること、すなわち、PAK 4がMKK 7に結合して直接MKK 7をリン酸化することにより引き起こされるMKK 7の活性化および／またはJIKがMKK 7に結合して直接MKK 7をリン酸化することにより引き起こされるMKK 7の活性化を阻害することを特徴とするJNK 3によるc-Junリン酸化の阻害剤および阻害方法に関する。また、かかる特徴を有するJNK 3によるc-Junリン酸化に基づく疾患の防止剤および／または阻害剤並びに防止方法および／または阻害方法、さらに神経変性の防止剤および／または阻害剤並びに防止方法および／または阻害方法に関する。さらに、PAK 4とMKK 7の結合、PAK 4によるMKK 7のリン酸化、JIKとMKK 7の結合またはJIKによるMKK 7のリン酸化を阻害する化合物の同定方法および該同定方法で得られた化合物に関する。

背景技術

c-Jun N末端キナーゼ (以下、JNKと略称する。) は、MAPキナーゼ (以下、MAPKと略称する。) ファミリーに属する蛋白質リン酸化酵素である。哺乳類では3つのJNK遺伝子 (JNK 1、JNK 2およびJNK 3) が見出されている。これらのうちJNK 3は脳神経系などに特異的に発現している。

JNK 3は、古典的MAPKとは異なり、増殖刺激ではほとんど活性化しない。J

NK3の活性化は、細胞に対するストレス（DNA損傷、紫外線、熱、高浸透圧、小胞体ストレス、活性酸素など。）や炎症性サイトカイン〔腫瘍壊死因子（TNF）、インターロイキン-1（IL-1）など。〕により引き起こされる。活性化されたJNKは、細胞質から核内へ移行し、c-Junなどの転写因子のリン酸化を介して標的遺伝子の発現を制御すると考えられている。

JNKの活性化は、各種ストレス刺激により引き起こされるアポトーシスに関与している。例えば、神経成長因子（NGF）除去による神経細胞死においてJNKが活性化すること（非特許文献1）、NGF除去による神経細胞死がc-Junのドミナントネガティブ変異体（dominant negative mutant）の発現により抑制されることが報告されている（非特許文献2）。さらに、JNK3のノックアウトマウスでは、カイニン酸投与による興奮性神経死が抑制されることが報告されている（非特許文献3）。これらから、JNK3の活性化が神経細胞死に関与していることが示唆されている。

JNKを活性化させるMAPKキナーゼ（以下、MAPKKと略称する。）として、MKK4とMKK7が知られている。MKK7は、MAPKK7、MAP2K7、JNKK2とも呼ばれ、JNKを特異的にリン酸化して活性化させる（非特許文献4および5）。一方、MKK4は、JNKをリン酸化して活性化させるだけではなく、同じくMAPKファミリーの一員であるERK2やp38もリン酸化して活性化させる。MKK4遺伝子を破壊した胚性幹細胞（ES細胞）においても浸透圧刺激または紫外線によるJNK活性化が認められることから（非特許文献6）、MKK7は、MKK4と独立してJNKの活性化に働いていると考えられている。

JNKの活性化はまた、低分子量GTP蛋白質の1つであるcdc42からのシグナルによって引き起こされる（非特許文献7）。cdc42に結合してそのシグナルを伝達するキナーゼとして、p21活性化キナーゼ（p21-activated kinase；PAK）が知られている。実際、PAKファミリーの一員であるPAK1、PAK2、PAK3またはPAK4の過剰発現により、JNKのシグナル伝達経路が活性化することが報告されている（それぞれ非特許文献8、9、7および10）。

しかし、PAKとJNK活性化との間の詳細なシグナル伝達経路の機構、例えば直接的なのかあるいは間接的なのかについては明らかにされていない。

c d c 4 2 が神経細胞死に関与していることを示唆する知見がいくつか報告されている。例えば、神経細胞への活性化型 c d c 4 2 の強制発現は神経細胞死を誘導し、

5 また、c d c 4 2 のドミナントネガティブ変異体はNGF除去による神経細胞死を抑制する（非特許文献11）。また、活性化型 c d c 4 2 により、JNKと同様、MKK7も活性化することが報告されている（非特許文献12）。よって、c d c 4 2 からMKK7を介してJNKへと伝わるシグナル伝達経路が神経細胞死に関与している可能性が考えられる。

10 JNK3活性化の原因となる各種ストレスの1つとして、小胞体ストレス（以下、ERストレスと略称する。）が挙げられる。ERストレスは、各種刺激（グルコース枯渇、カルシウム濃度恒常性の変化、活性酸素など。）により、小胞体（以下、ERと略称することもある。）における蛋白質のフォールディング（folding）の過程に異常が起こり、ER内に異常蛋白質が蓄積することにより生じる。ERストレスが生
15 じると、小胞体内分子シャペロンの発現が誘導され（unfolded protein response: UPR）、フォールディング異常（misfolding）の解消へと向かう。この過程においてERストレスのセンサー蛋白質として働いているものとして、IRE1が知られている（非特許文献13）。

ERストレスの負荷によるJNK活性化の過程に、IRE1およびTRAF2が関
20 与していることが報告されている（非特許文献14および15）。すなわち、IRE1破壊細胞株ではERストレスの負荷によるJNK活性化が抑制され、また、IRE1の過剰発現によりJNKが活性化する。さらに、IRE1はTRAF2と結合し、また、TRAF2のドミナントネガティブ変異体はIRE1によるJNKの活性化を阻害する。

25 ERストレスの負荷によるJNK活性化の過程に関与する蛋白質として、その他にJIK（DPKとも呼ぶ。）が知られている。JIKは、IRE1およびTRAF2と結合し、ERストレスの負荷によるJNK活性化に関与していると考えられている。

例えば、J I Kの過剰発現はERストレスの負荷によるJ N K活性化を増強し、J I Kの活性部位欠失変異体はERストレスの負荷によるJ N K活性化を抑制する（非特許文献15）。

J I Kは、イーストSte 20 p蛋白質のヒト相同体であるSTE 20に関連した
5 セリン／スレオニンキナーゼ（STE 20-related serine／thre-
e o n i n e k i n a s e）の一つである。J I Kについては上記作用の他に、例
えば、上皮増殖因子（EGF）刺激によるJ N K活性化を阻害し、その際J I K自身
の活性も抑制される（非特許文献16）こと、また、J I Kの過剰発現がJ N Kの活
性化を引き起こす（非特許文献17）ことが報告されている。

10 一方、ERストレスの過剰負荷により、アポトーシスが誘導されることが知られて
いる。虚血またはポリグルタミンやアミロイド β （以下、A β と略称する。）などの異
常蛋白質の蓄積は、ERストレスを生じさせると考えられることから、ERストレス
の負荷による神経細胞死と神経変性疾患との関わりが指摘されている。

ERストレスの負荷によるアポトーシスが、MKK 4およびMKK 7の各々のドミ
15 ナントネガティブ変異体により抑制されたことから（非特許文献18）、ERストレス
の負荷によるアポトーシス誘導に、MKK 4またはMKK 7を介したJ N K活性化が
関与している可能性がある。

以下に、本明細書で引用した文献を列記する。

特許文献1：国際公開第WO 01／67299号公報。

20 非特許文献1：E i l e r s A. e t a l., J. N e u r o s c i. (1998)
18:1713-1724。

非特許文献2：H a m J. e t a l., N e u r o n (1995) 14:927-
939。

非特許文献3：Y a n g D. e t a l., N a t u r e (1997) 389:86
25 5-870。

非特許文献4：M o r i g u c h i T. e t a l., E M B O J. (1997)
16:7045-7053。

非特許文献5:Foltz I. et al., J. Biol. Chem. (1998) 273:9344-9351。

非特許文献6:Yang D. et al., Proc. Natl. Acad. Sci. U. S. A. (1997) 94:3004-3009。

5 非特許文献7:Bagrodia S. et al., J. Biol. Chem. (1995) 270:27995-27998。

非特許文献8:Brown J. et al., Curr. Biol. (1996) 6:598-605。

10 非特許文献9:Frost J. et al., Mol. Cell. Biol. (1996) 16:3707-3713。

非特許文献10:Abo A. et al., EMBO J. (1998) 17:6527-6540。

非特許文献11:Bazenet C. et al., Proc. Natl. Acad. Sci. U. S. A. (1998) 95:3984-3989。

15 非特許文献12:Foltz I. et al., J. Biol. Chem. (1998) 273:9344-9351。

非特許文献13:Urano F. et al., J. Cell Sci. (2000) 113:3697-3702。

20 非特許文献14:Urano F. et al., Science (2000) 287:664-666。

非特許文献15:Yoneda T. et al., J. Biol. Chem. (2001) 276:13935-13940。

非特許文献16:Tassi E. et al., J. Biol. Chem. (1999) 274:33287-33295。

25 非特許文献17:Zhang W. et al., Biochem. Biophys. Res. Commun. (2000) 274:872-879。

非特許文献18:Zhang C. et al., Biochem. Biophys.

Res. Commun. (2001) 289:718-724。

非特許文献19：細胞工学、2001年、第20巻、第11号、特集：神経変性疾患の発症メカニズムと治療への展望。

5 発明の開示

このような現状を鑑みると、各種ストレスによるJNK活性化機構のいずれかの段階を阻害することは、JNKの活性化によって引き起こされるアポトーシスに基づく疾患、具体的には神経変性疾患などの解明並びに防止および／または治療を可能にすると考えられる。その一例として、MKK7と相互作用する機能を有する蛋白質を見出して、MKK7の活性化を阻害することはJNKの活性化を阻害することとなる。

本発明者らは、MKK7がPAK4またはJIKと相互作用することをインシリコ（*in silico*）で予測して、実験的に証明し、該相互作用の結果、PAK4またはJIKによりMKK7がリン酸化されてJNK3シグナル伝達経路を活性化することを見出して、本発明を完成した。

15 本発明の一態様は、下記i) からiv) のうちの少なくとも1つを特徴とする、JNK3によるc-Junリン酸化の阻害剤に関する；

- i) PAK4とMKK7の結合阻害、
- ii) PAK4によるMKK7のリン酸化の阻害、
- iii) JIKとMKK7の結合阻害、

20 および

iv) JIKによるMKK7のリン酸化の阻害。

また本発明の一態様は、前記i) からiv) のうちの少なくとも1つを特徴とする、JNK3によるc-Junリン酸化の阻害方法に関する。

さらに本発明の一態様は、前記i) からiv) のうちの少なくとも1つを特徴とする、
25 JNK3によるc-Junリン酸化に基づく疾患の防止剤および／または治療剤に関する。

さらにまた本発明の一態様は、前記i) からiv) のうちの少なくとも1つを特徴と

する、神経変性疾患の防止剤および／または治療剤に関する。

また本発明の一態様は、前記 i) から iv) のうちの少なくとも 1 つを特徴とする、JNK3 による c-Jun リン酸化に基づく疾患の防止方法および／または治療方法に関する。

- 5 さらに本発明の一態様は、前記 i) から iv) のうちの少なくとも 1 つを特徴とする、神経変性疾患の防止方法および／または治療方法に関する。

さらにまた本発明の一態様は、PAK4 と MKK7 の結合を阻害する化合物の同定方法であって、PAK4 と MKK7 とが結合する条件下で、PAK4 および／または MKK7 を被検化合物と接触させ、次いで、PAK4 と MKK7 との結合により生じるシグナルの存在、不存在または変化を検出することにより、被検化合物が PAK4 と MKK7 との結合を阻害するか否かを決定することを含む同定方法に関する。

また本発明の一態様は、JIK と MKK7 の結合を阻害する化合物の同定方法であって、JIK と MKK7 とが結合する条件下で、JIK および／または MKK7 を被検化合物と接触させ、次いで、JIK と MKK7 との結合により生じるシグナルの存在、不存在または変化を検出することにより、被検化合物が JIK と MKK7 との結合を阻害するか否かを決定することを含む同定方法に関する。

さらに本発明の一態様は、PAK4 による MKK7 のリン酸化を阻害する化合物の同定方法であって、PAK4 および／または MKK7 と被検化合物を接触させ、MKK7 のリン酸化を検出することのできるシグナルおよび／またはマーカーを使用する系を導入し、このシグナルおよび／またはマーカーの存在、不存在または変化を検出することにより、被検化合物が PAK4 による MKK7 のリン酸化を阻害するか否かを決定する同定方法に関する。

さらにまた本発明の一態様は、JIK による MKK7 のリン酸化を阻害する化合物の同定方法であって、JIK および／または MKK7 と被検化合物を接触させ、MKK7 のリン酸化を検出することのできるシグナルおよび／またはマーカーを使用する系を導入し、このシグナルおよび／またはマーカーの存在、不存在または変化を検出することにより、被検化合物が JIK による MKK7 のリン酸化を阻害するか否かを

決定する同定方法に関する。

また本発明の一態様は、前記いずれかの同定方法によって得られた化合物に関する。

さらに本発明の一態様は、PAK 4 とMKK 7 の結合を阻害する化合物に関する。

さらにまた本発明の一態様は、J I K とMKK 7 の結合を阻害する化合物に関する。

- 5 また本発明の一態様は、PAK 4 によるMKK 7 のリン酸化を阻害する化合物に関する。

さらに本発明の一態様は、J I K によるMKK 7 のリン酸化を阻害する化合物に関する。

さらにまた本発明の一態様は、PAK 4 とMKK 7 の結合阻害剤に関する。

- 10 また本発明の一態様は、J I K とMKK 7 の結合阻害剤に関する。

さらに本発明の一態様は、PAK 4 によるMKK 7 のリン酸化阻害剤に関する。

さらにまた本発明の一態様は、J I K によるMKK 7 のリン酸化阻害剤に関する。

また本発明の一態様は、前記化合物および前記阻害剤の少なくとも1種以上を有効量含有してなる医薬組成物に関する。

- 15 さらに本発明の一態様は、前記化合物および前記阻害剤の少なくとも1種以上を有効量含有してなる、JNK 3 によるc-Junリン酸化に基づく疾患の防止剤および／または治療剤に関する。

さらにまた本発明の一態様は、前記化合物および前記阻害剤の少なくとも1種以上を有効量含有してなる、神経変性疾患の防止剤および／または治療剤に関する。

- 20 また本発明の一態様は、神経変性疾患が、ポリグルタミン病、ハンチントン病、脊髄小脳失調症、球脊髄性筋萎縮症、歯状核赤核淡蒼球ルイ体萎縮症、アルツハイマー病、ダウン症、パーキンソン病、Lewy小体型痴呆症、多系統萎縮症、家族性筋萎縮性側索硬化症、進行性核上性麻痺、皮質基底核変性症、pick病、ファミリーアル
25 a)、クロイツフェルトーヤコブ (C r e u t z f e l d t - J a k o b) 病、ゲルストマンーストランスラー (G e r s t m a n n - S t r a n s s l e r) 症候群、狂牛病 (ウシ海綿状脳症) (B S E)、またはニューロセルピン (n e u r o s e r p i

n) 封入体を伴う家族性痴呆症である前記神経変性疾患の防止剤および／または治療剤に関する。

さらに本発明の一態様は、前記化合物および前記阻害剤の少なくとも1種以上を使用することを特徴とする、JNK3によるc-Junリン酸化に基づく疾患の防止方法および／または治療方法に関する。

さらにまた本発明の一態様は、前記化合物および前記阻害剤の少なくとも1種以上を使用することを特徴とする、神経変性疾患の防止方法および／または治療方法に関する。

また本発明の一態様は、神経変性疾患が、ポリグルタミン病、ハンチントン病、脊髄小脳失調症、球脊髄性筋萎縮症、歯状核赤核淡蒼球レイ体萎縮症、アルツハイマー病、ダウン症、パーキンソン病、Lewy小体型痴呆症、多系統萎縮症、家族性筋萎縮性側索硬化症、進行性核上性麻痺、皮質基底核変性症、pick病、ファミリアルブリティッシュデメンチア(familial British dementia)、クロイツフェルトーヤコブ(Creutzfeldt-Jakob)病、ゲルストマンーストランスラー(Gerstmann-Stranssler)症候群、狂牛病(ウシ海綿状脳症)(BSE)、またはニューロセルピン(neuroserpin)封入体を伴う家族性痴呆症である前記神経変性疾患の防止方法および／または治療方法に関する。

さらに本発明の一態様は、PAK4、JIK、PAK4をコードするポリヌクレオチド、JIKをコードするポリヌクレオチド、PAK4をコードするポリヌクレオチドを含有するベクターおよびJIKをコードするポリヌクレオチドを含有するベクターから選ばれる少なくとも1つと、MKK7、MKK7をコードするポリヌクレオチドおよびMKK7をコードするポリヌクレオチドを含有するベクターから選ばれる少なくとも1つとを含んでなる試薬キットに関する。

さらにまた本発明の一態様は、前記同定方法に用いる試薬キットであって、PAK4、JIK、PAK4をコードするポリヌクレオチド、JIKをコードするポリヌクレオチド、PAK4をコードするポリヌクレオチドを含有するベクターおよびJIK

をコードするポリヌクレオチドを含有するベクターから選ばれる少なくとも1つと、MKK 7、MKK 7をコードするポリヌクレオチドおよびMKK 7をコードするポリヌクレオチドを含有するベクターから選ばれる少なくとも1つとを含んでなる試薬キットに関する。

5

図面の簡単な説明

第1図は、MKK 7とPAK 4との相互作用をインシリコで予測した結果を示す。MKK 7とPAK 4のローカルアライメントを行い、高いスコアを示した領域を表示した。上の配列および下の配列はそれぞれ、MKK 7の部分配列およびPAK 4の部分配列である。

10

第2図は、PAK 4がインビトロでMKK 7をリン酸化したことを示す。GST-MKK 7はFLAG-PAK 4存在下でリン酸化された（レーン4）が、FLAG-PAK 4非存在下（レーン3）ではリン酸化されなかった。一方、GSTはFLAG-PAK 4存在下（レーン2）でも非存在下（レーン1）でもリン酸化されなかった。

15 図の左側に示した数値は分子量を示す。

第3図は、PAK 4とMKK 7が細胞内で結合したことを示す。図中の下段は、免疫沈降試験（IP）において、HA-MKK 7とFLAG-PAK 4とを共発現させた細胞の細胞溶解物（cell lysate）（レーン2）ではHA-MKK 7とFLAG-PAK 4を含む免疫共沈降物が検出されたが、HA-MKK 7のみを発現させた細胞の細胞溶解物（レーン1）においてはかかる免疫共沈降物が検出されなかったことを示す。また、上段および中段はそれぞれ、各細胞溶解物におけるFLAG-PAK 4およびHA-MKK 7の発現を確認した結果を示す。免疫共沈降物の検出および発現の確認はウエスタンブロット法（WB）で行った。

20

第4図は、PAK 4の一過性発現によりJNK 3によるc-Junリン酸化がPAK 4の発現量に依存して増強されたことを示す。図中の下段は、キナーゼアッセイ（kinase assay）において、HA-PAK 4とFLAG-JNK 3とを共発現させた細胞の細胞溶解物（レーン2-4）によりGST-c-Jun（1-79）

25

がリン酸化されたが、FLAG-JNK3のみ発現させた細胞の細胞溶解物（レーン1）ではGST-c-Jun（1-79）はリン酸化されなかったことを示す。レーン2、レーン3およびレーン4はそれぞれ、HA-PAK4発現ベクター（pcDNA-HA-PAK4）を0.1 μ g、0.5 μ g、および2.0 μ gトランスフェクションした結果を示す。また、上段および中段はそれぞれ、FLAG-JNK3およびHA-PAK4の発現を確認した結果を示す。発現の確認はウエスタンブロット法（WB）で行った。

第5図は、MKK7とJIKとの相互作用をインシリコで予測した結果を示す。MKK7とJIKのローカルアライメントを行い、高いスコアを示した領域を表示した。上の配列および下の配列はそれぞれ、MKK7の部分配列およびJIKの部分配列である。

第6図は、JIKがインビトロでMKK7をリン酸化したことを示す。GST-MKK7はHA-JIK存在下でリン酸化された（レーン2）が、HA-JIK非存在下（レーン1）ではリン酸化されなかった。一方、GSTはHA-JIK存在下（レーン3）でリン酸化されなかった。図の左側に示した数値は分子量を示す。

第7図は、JIKとMKK7が細胞内で結合したことを示す。図中の下段は、免疫沈降試験（IP）において、FLAG-MKK7とHA-JIKとを共発現させた細胞の細胞溶解物（cell lysate）（レーン2）ではFLAG-MKK7とHA-JIKを含む免疫共沈降物が検出されたが、FLAG-MKK7のみを発現させた細胞の細胞溶解物（レーン1）においてはかかる免疫共沈降物が検出されなかったことを示す。また、上段および中段はそれぞれ、各細胞溶解物におけるHA-JIKおよびFLAG-MKK7の発現を確認した結果を示す。免疫共沈降物の検出および発現の確認はウエスタンブロット法（WB）で行った。

第8図は、JIKの一過性発現によりJNK3によるc-Junリン酸化が増強されたことを示す。HA-JIKおよびFLAG-JNK3のいずれも非発現の細胞の細胞溶解物（レーン1）並びにFLAG-JNK3のみ発現させた細胞の細胞溶解物（レーン2）ではGST-c-Jun（1-79）がほとんどリン酸化されなかった

のに対し、HA-J I KとFLAG-J N K 3を共発現させた細胞の細胞溶解物（レーン3）ではGST-c-J u n（1-79）のリン酸化が認められた。

発明を実施するための最良の形態

- 5 本発明は、参照によりここに援用されるところの、日本国特許出願番号第2002-190909号および同第2002-190910号からの優先権を請求するものである。

本明細書中で使用されている技術的および科学的用語は、別途定義されていない限り、当業者により普通に理解される意味を持つ。本明細書中では当業者に既知の種々の方法が参照されている。そのような引用されている公知の方法を開示する刊行物などの資料は、引用により、本明細書中にそれらの全体が完全に記載されているものと見なす。

以下、本発明について、発明の実施の態様をさらに詳しく説明する。以下の詳細な説明は例示であり、説明のためのものに過ぎず、本発明を何ら限定するものではない。

- 15 本発明においては、MKK 7と相互作用する機能を有する蛋白質を国際公開第WO 01/67299号公報（特許文献1）記載の方法に従って予測し、その結果2つの蛋白質を見出した。これら蛋白質は、p 21活性化キナーゼ4（以下、PAK 4と略称する。）およびSTE 20に関連したセリン/スレオニンキナーゼの一つであるJ I Kである。そして、実験的に、PAK 4およびJ I KがそれぞれMKK 7と結合すること、さらにPAK 4およびJ I Kがそれぞれ直接MKK 7をリン酸化することを初めて見出した。また、PAK 4またはJ I Kの発現により、c-J u n N末端キナーゼ3（以下、J N K 3と略称する。）が活性化されてc-J u nがリン酸化されることを明らかにした。これらから、PAK 4およびJ I KがそれぞれMKK 7を直接リン酸化することによりJ N K 3シグナル伝達経路が活性化されることが判明した。

- 25 本明細書においてMKK 7と相互作用する機能を有する蛋白質とは、MKK 7と特異的に作用し合う蛋白質、具体的には例えばその機能の1つとして特異的にMKK 7と結合する蛋白質を意味する。より具体的には、その機能の1つとしてMKK 7をリ

ン酸化し得る蛋白質を意味する。本明細書においてはアミノ酸を表記する場合、1文字または3文字にて表記することがある。

PAK 4についてはこれまでに、低分子量GTP蛋白質の1つであるcdc42により活性化されること（非特許文献10）が知られている。また、活性化型cdc42が神経細胞死を誘導すること（非特許文献11）、および活性化型cdc42またはPAK 4がJNKシグナル伝達経路を活性化することが報告されている（非特許文献7および10）。

本発明において明らかにした知見およびこれら公知の知見から、cdc42がPAK 4を活性化し、活性化されたPAK 4がMKK 7に結合して直接リン酸化してこれを活性化させ、その結果JNK 3が活性化してc-Junをリン酸化し、最終的に何らかの生理機能が発現するというシグナル伝達経路が存在すると考えた。該生理機能としては、例えばアポトーシスの誘導など、より具体的には神経細胞死の誘導などが例示できる。このことから、PAK 4とMKK 7の結合および/またはPAK 4によるMKK 7のリン酸化を阻害することにより、JNK 3の活性化によるc-Junのリン酸化を阻害することができ、ひいては神経細胞死を阻害することが可能である。さらに、JNK 3シグナル伝達経路の活性化により引き起こされる疾患、例えばcdc42が介在するJNK 3シグナル伝達経路の活性化に基づく疾患の防止および/または治療が可能である。

JIKは、ERストレスの負荷によるJNK活性化に関与していると考えられている。例えば、JIKの過剰発現がERストレスの負荷によるJNK活性化を増強すること、またJIKの活性部位欠失変異体がERストレスの負荷によるJNK活性化を抑制したことが報告されている（非特許文献15）。

本発明において明らかにした知見およびこれら公知の知見から、ERストレスの負荷による生理機能の発現には、ERストレスの負荷によりJIKが活性化され、活性化されたJIKがMKK 7に結合して直接リン酸化してこれを活性化させ、その結果JNK 3が活性化してc-Junをリン酸化するというシグナル伝達経路が存在していると考えた。該生理機能としては、例えばアポトーシスの誘導など、より具体的に

は神経細胞死の誘導などが例示できる。このことから、J I KとMKK 7の結合および／またはJ I KによるMKK 7のリン酸化を阻害することにより、JNK 3の活性化によるc-J u nのリン酸化を阻害することができ、ひいては神経細胞死を阻害することが可能である。さらに、JNK 3シグナル伝達経路の活性化により引き起こされる疾患、例えばc d c 4 2が介在するJNK 3シグナル伝達経路の活性化に基づく疾患の防止および／または治療が可能である。

JNK 3シグナル伝達経路の活性化によって引き起こされる疾患としては、例えばアポトーシスに基づく疾患、具体的には、神経変性疾患などが挙げられる。神経変性疾患としては、次に挙げる例に限定されるものではないが、ポリグルタミン病（例えばハンチントン病、脊髄小脳失調症、球脊髄性筋萎縮症、および歯状核赤核淡蒼球ルイ体萎縮症など）、アルツハイマー病、ダウン症、パーキンソン病、L e w y小体型痴呆症、多系統萎縮症、家族性筋萎縮性側索硬化症、進行性核上性麻痺、皮質基底核変性症、p i c k病、ファミリアル ブリティッシュ デメンチア（f a m i l i a l B r i t i s h d e m e n t i a）、クロイツフェルトーヤコブ（C r e u t z f e l d t - J a k o b）病、ゲルストマンーストランスラー（G e r s t m a n n - S t r a n s s l e r）症候群、狂牛病（ウシ海綿状脳症）（B S E）、およびニューロセルピン（n e u r o s e r p i n）封入体を伴う家族性痴呆症などを挙げることができる（非特許文献19）。またこの他に、ERストレスの負荷が関与している虚血や再灌流による神経細胞死の防止および／または治療が可能である。

本発明においては、下記i) からiv) のうちの少なくとも1つを特徴とする、JNK 3によるc-J u nリン酸化の阻害剤、JNK 3によるc-J u nリン酸化の阻害方法、さらにはJNK 3によるc-J u nのリン酸化に基づく疾患、例えば神経変性疾患などの防止剤および／または治療剤並びに防止方法および／または治療方法を提供可能である； i) PAK 4とMKK 7の結合阻害； ii) PAK 4によるMKK 7のリン酸化の阻害； iii) J I KとMKK 7の結合阻害； およびiv) J I KによるMKK 7のリン酸の阻害。

本発明においては、上記知見に基づいて、PAK 4とMKK 7の結合および／また

はPAK 4によるMKK 7のリン酸化を阻害する化合物、あるいはJ I KとMKK 7の結合および／またはJ I KによるMKK 7のリン酸化を阻害する化合物の同定方法を提供する。該同定方法は、自体公知の医薬品スクリーニングシステムを利用して構築可能である。化合物の同定に使用するPAK 4、J I KおよびMKK 7は、これら
5 を遺伝子工学的手法で発現させた細胞、無細胞系合成産物、化学合成産物、または該細胞や生体試料から調製したものであってよく、これらからさらに精製されたものであってもよい。また、PAK 4またはJ I KとMKK 7との結合およびこれら蛋白質の機能、例えばキナーゼ活性が阻害されなければ、N末端側やC末端側に別の蛋白質やペプチドなどを直接的にまたはリンカーペプチドなどを介して間接的に遺伝子工学的
10 的手法などを用いて付加することにより標識化したものであってもよい。あるいは、化学修飾物質により標識化したものであってもよい。好ましくは、それらの基本的な性質が阻害されないような標識化が望ましい。付加する蛋白質やペプチドなどとしては、例えばグルタチオン S-トランスフェラーゼ、 β -ガラクトシダーゼ、ホースラディッシュ・パーオキシダーゼまたはアルカリホスファターゼなどの酵素類、H i s - t a g、M y c - t a g、H A - t a g、F L A G - t a gまたはX p r e s s - t a gなどのタグペプチド類、マルトース結合蛋白質、および免疫グロブリンのF c断片などが挙げられる。また、標識化に用いる化学修飾物質としては、グリーン蛍光蛋白質、フルオレセインイソチオシアネート (f l u o r e s c e i n i s o t h i o c y a n a t e) またはフィコエリスリン (p h y c o e r y t h r i n) な
15 どの蛍光物質類、ビオチン、あるいは放射性同位元素などを例示できる。標識化するとき、これら蛋白質やペプチドなどは単独で付加してもよいし複数を組み合わせて付加することもできる。これら標識化に用いた蛋白質またはペプチドなどの物質自体、またはその機能を測定することにより、例えばPAK 4若しくはJ I KとMKK 7との結合を検出することが可能になる。被検化合物としては、例えば化学ライブラリー
20 や天然物由来の化合物、またはPAK 4、J I KおよびMKK 7の一次構造や立体構造に基づいてドラッグデザインして得られた化合物などが挙げられる。

例えば、PAK 4とMKK 7との結合を可能にする条件を選択し、該条件下でP A

K 4、MKK 7 および被検化合物を接触させ、次いで、PAK 4 とMKK 7 との結合を検出することのできるシグナルおよび／またはマーカーを使用する系を導入し、このシグナルおよび／またはマーカーの存在、不存在、またはその変化を検出することにより、PAK 4 とMKK 7 の結合を阻害する化合物を同定可能である。例えばPAK 4 とMKK 7 との結合により生じるシグナルまたは該結合のマーカーが、被検化合物をPAK 4 およびMKK 7 と接触させたときに消失あるいは低減するなどの変化を示した場合、当該被検化合物はPAK 4 とMKK 7 との結合を阻害するものであると判定できる。かかる同定方法において、被検化合物をPAK 4 および／またはMKK 7 と予め接触させ、その後PAK 4 とMKK 7 の結合反応を行うことも可能である。ここでシグナルとは、そのものの自体がその物理的または化学的性質により直接検出され得るものを指し、マーカーとはそのものの物理的または生物学的性質を指標として間接的に検出され得るものを指す。シグナルとしてはルシフェラーゼ、グリーン蛍光蛋白質、および放射性同位体など、マーカーとしては、レポーター遺伝子、例えばクロラムフェニコールアセチルトランスフェラーゼ遺伝子など、または検出用のエピトープタグ、例えば6×His tag など、公知のものが利用できる。これらシグナルまたはマーカーの検出方法は当業者には周知のものである。

具体的には、例えばPAK 4 またはMKK 7 の一方を固相化し、他方をシグナルで標識化して用いて結合反応を行い、標識シグナルを定量的に測定するといった当業者に知られた一般的なインビトロ (in vitro) における結合実験系に、被検化合物を加えて評価することにより、PAK 4 とMKK 7 の結合を阻害する化合物を得ることができる。

あるいは、PAK 4 によりMKK 7 がリン酸化される条件を選択し、該条件下でPAK 4 およびMKK 7 と被検化合物とを接触させ、MKK 7 のリン酸化を検出することのできるシグナルおよび／またはマーカーを使用する系を導入し、このシグナルおよび／またはマーカーの存在若しくは不存在または変化を検出することにより、PAK 4 によるMKK 7 のリン酸化を阻害する化合物を同定できる。例えばPAK 4 によるMKK 7 のリン酸化により生じるシグナルまたは該リン酸化のマーカーが、被検化合

物をPAK4およびMKK7と接触させたときに消失あるいは低減するなどの変化を示した場合、当該被検化合物はPAKによるMKK7のリン酸化を阻害するものであると判定できる。かかる同定方法において、被検化合物をPAK4および／またはMKK7と予め接触させ、その後にPAK4によるMKK7のリン酸化反応を行うことも可能である。蛋白質リン酸化試験およびリン酸化蛋白質の定量は、自体公知の方法により実施可能である。簡便には、例えば後述する実施例に記載したようにPAK4とMKK7とを放射性同位体 (^{32}P) で標識したアデノシン三リン酸 (ATP) の存在下でインビトロで反応させ、反応後にSDS-PAGEにより蛋白質の分離を行い、得られた蛋白質のバンドを染色して検出し、リン酸化されたMKK7に相当するバンドの放射活性を測定することにより蛋白質リン酸化試験およびリン酸化蛋白質の定量を実施できる。

または、PAK4およびMKK7を共発現させた細胞を用い、該細胞と被検化合物とを接触させ、PAK4とMKK7の結合またはPAK4によるMKK7のリン酸化を検出することのできるシグナルおよび／またはマーカーを使用する系を導入し、このシグナルおよび／またはマーカーの存在若しくは不存在または変化を検出することにより、PAK4とMKK7の結合および／またはPAK4によるMKK7のリン酸化を阻害する化合物を同定できる。

上記細胞を使用した同定方法は、上記インビトロでの同定方法と組み合わせて使用できる。当該インビトロの同定方法により得られたPAK4とMKK7の結合および／またはPAK4によるMKK7のリン酸化を阻害する化合物を、細胞を使用した上記同定方法で再度試験することにより、有用な化合物をさらに選択し得る。

上記同定方法において、PAK4の代わりにJIKを用いることにより同様に、JIKとMKK7の結合および／またはJIKによるMKK7のリン酸化を阻害する化合物を同定可能である。

本発明にかかる同定方法においては、PAK4とMKK7の結合を阻害する化合物、JIKとMKK7の結合を阻害する化合物、PAK4によるMKK7のリン酸化を阻害する化合物、およびJIKによるMKK7のリン酸化を阻害する化合物を得ること

ができる。これら化合物もまた、本発明の範囲に包含される。これら化合物は、PAK 4 とMKK 7 の結合阻害剤、PAK 4 によるMKK 7 のリン酸化の阻害剤、JIK とMKK 7 の結合阻害剤、またはJIKによるMKK 7 のリン酸化の阻害剤として利用可能である。このような化合物としては、両蛋白質が相互作用する部位、例えば結合部位のアミノ酸配列からなるペプチドまたはオリゴペプチドを例示できる。このようなペプチドまたはオリゴペプチドは、PAK 4 またはMKK 7 のアミノ酸配列から設計し、自体公知のペプチド合成法によって合成し、上記同定方法においてPAK 4 とMKK 7 の結合、PAK 4 によるMKK 7 のリン酸化、JIK とMKK 7 の結合、またはJIKによるMKK 7 のリン酸化を阻害するか否かを試験することにより同定可能である。また、PAK 4 とMKK 7 の結合を阻害し得る抗体またはJIKとMKK 7 の結合を阻害し得る抗体も上記化合物の1つとして例示できる。かかる抗体は、PAK 4、JIKまたはMKK 7 に対する抗体を作成し、得られた抗体からPAK 4 とMKK 7 の結合またはJIKとMKK 7 の結合を阻害し得るものを選択することにより取得可能である。抗体の作製は、抗原として例えば、PAK 4、JIKおよびMKK 7 の各蛋白質自体、またはPAK 4 とMKK 7 若しくはJIKとMKK 7 が相互作用する部位のアミノ酸配列を含むペプチド若しくはオリゴペプチドを用いて、自体公知の抗体作製法により行うことができる。

上記選別された化合物、上記結合阻害剤および上記リン酸化阻害剤は、さらに生物学的有用性と毒性のバランスを考慮して選別することによって、PAK 4 とMKK 7 の結合、JIKとMKK 7 の結合、PAK 4 によるMKK 7 のリン酸化、またはJIKによるMKK 7 のリン酸化を阻害することに基づく医薬の有効成分として有用である。PAK 4 およびJIKはいずれも、MKK 7 に結合すると直接MKK 7 をリン酸化してこれを活性化し、その結果JNK 3 が活性化してc-Junがリン酸化される。従って、上記化合物、上記結合阻害剤および上記リン酸化阻害剤は、JNK 3 によるc-Junリン酸化に基づく医薬、例えばアポトーシスに基づく疾患、具体的には神経変性疾患などに対する医薬の有効成分として用いることができる。

本発明に係る医薬は、上記選別された化合物、上記結合阻害剤および上記リン酸化

阻害剤のうちの少なくとも1つを有効量含む医薬となしてもよいが、通常は、1種または2種以上の医薬用担体または賦形剤を用いて医薬組成物を製造することが好ましい。かかる担体としては、生理食塩水、緩衝化生理食塩水、デキストロース、水、グリセロール、およびそれらの混合物が挙げられるが、これらに限らない。

- 5 必要な用量範囲は、上記化合物、上記結合阻害剤および上記リン酸化阻害剤の有効性、投与形態、疾病の種類、対象の性質（体重、年齢、病状および他の医薬の使用の有無など）、および担当医師の判断により適宜選択することが望ましい。具体的には、適当な用量は、例えば対象の体重1 kgあたり0.1 μ gないし100 μ gの範囲であることが好ましい。しかしながら、当該分野においてよく知られた最適化のための
- 10 一般的な常套的実験を用いてこれらの用量の変更を行うことができる。上記投与量は1日1～4回に分けて投与することができ、数日または数週間に1回の割合で間欠的に投与してもよい。

- 処方投与形態は、適したものを選択すればよく、該処方は当業者によく知られたものを用いればよい。また、処方するときには、これらを単独で使用してもよく、ある
- 15 いは治療に必要な他の化合物または医薬と共に使用してもよい。例えば、c-Junリン酸化阻害剤または神経変性疾患の防止剤および／または治療剤などの有効成分を配合してもよい。

- 投与形態は、全身投与または局所投与のいずれも選択することができる。この場合、疾患、症状などに応じた適当な投与形態を選択する。例えば、通常の静脈内投与、動
- 20 脈内投与のほか、皮下、皮内、筋肉内などに投与することもできる。腸溶処方またはカプセル処方がうまく処方されるならば、経口投与も可能である。さらに、胆汁酸塩またはフシジン酸または他の界面活性剤のような浸透剤を用いる経粘膜投与若しくは経皮投与を用いることもできる。局所的な投与においては、膏薬、パスタ、ゲルなどの形態での投与であってもよい。

- 25 製剤化にあたっては、その投与形態あるいは有効成分の物性に応じて適切な製剤用添加物を用いることができ、常法に従って製剤化することができる。具体的には、例えば散剤、丸剤、錠剤、カプセル製剤、水溶液製剤、エタノール溶液製剤、リポソーム

ム製剤、脂肪乳剤、シクロデキストリンなどの包接体などの製剤化方法が利用できる。

散剤、丸剤、カプセル剤および錠剤は、ラクトース、グルコース、シュクロース、マンニトールなどの賦形剤、澱粉、アルギン酸ソーダなどの崩壊剤、マグネシウムステアレート、タルクなどの滑沢剤、ポリビニルアルコール、ヒドロキシプロピルセル
5 ロース、ゼラチンなどの結合剤、脂肪酸エステルなどの界面活性剤、グリセリンなどの可塑剤などを用いて製造できる。錠剤やカプセルを製造するには、固体の製薬担体が用いられる。

懸濁剤は、水、シュクロース、ソルビトール、フラクトースなどの糖類、ポリエチレングリコールなどのグリコール類、油類を使用して製造できる。

- 10 注射用の溶液は、塩溶液、グルコース溶液、または塩水とグルコース溶液の混合物からなる担体を用いて調製可能である。

リポソーム化は、例えばリン脂質を有機溶媒（クロロホルムなど）に溶解した溶液に、当該物質を溶媒（エタノールなど）に溶解した溶液を加えた後、溶媒を留去し、これにリン酸緩衝液を加え、振盪、超音波処理および遠心分離した後、上清を濾過処
15 理して回収することにより行い得る。

- 脂肪乳剤化は、例えば当該物質、油成分（大豆油、ゴマ油、オリーブ油などの植物油、MCTなど）、乳化剤（リン脂質など）などを混合、加熱して溶液とした後に、必要量の水を加え、乳化機（ホモジナイザー、例えば高圧噴射型や超音波型など）を用いて、乳化・均質化処理して行い得る。また、これを凍結乾燥化することも可能である。なお、脂肪乳剤化するとき、乳化助剤を添加してもよく、乳化助剤としては、例
20 えばグリセリンや糖類（例えばブドウ糖、ソルビトール、果糖など）が例示される。

- シクロデキストリン包接化は、例えば当該物質を溶媒（エタノールなど）に溶解した溶液に、シクロデキストリンを水などに加温溶解した溶液を加えた後、冷却して析出した沈殿を濾過し、滅菌乾燥することにより行い得る。この際、使用されるシクロ
25 デキストリンは、当該物質の大きさに応じて、空隙直径の異なるシクロデキストリン（ α 、 β 、 γ 型）を適宜選択すればよい。

本発明は、試薬キットであって、PAK 4、J I K、PAK 4をコードするポリヌ

クレオチド、J I Kをコードするポリヌクレオチド、P A K 4をコードするポリヌクレオチドを含有するベクターおよびJ I Kをコードするポリヌクレオチドを含有するベクターから選ばれる少なくとも1つと、M K K 7、M K K 7をコードするポリヌクレオチドおよびM K K 7をコードするポリヌクレオチドを含有するベクターから選ばれる少なくとも1つとを含んでなる試薬を提供する。本発明にかかる試薬キットは、上記同定方法に使用することができる。J I K、P A K 4およびM K K 7は、これらを遺伝子工学的手法で発現させた細胞、無細胞系合成産物、化学合成産物、または当該細胞や生体試料から調製したものであってよく、これらからさらに精製されたものであってもよい。また、J I KまたはP A K 4とM K K 7の結合およびこれら蛋白質の機能、例えばキナーゼ活性が阻害されなければ、N末端側やC末端側に別の蛋白質やペプチドなどを直接的にまたはリンカーペプチドなどを介して間接的に遺伝子工学的手法などを用いて付加することにより標識化したものであってもよい。あるいは、化学修飾物質により標識化したものであってもよい。好ましくは、それらの基本的な性質が阻害されないような標識化が望ましい。付加する蛋白質やペプチドなどとしては、例えばグルタチオン S-トランスフェラーゼ、 β -ガラクトシダーゼ、ホースラディッシュ・パーオキシダーゼまたはアルカリホスファターゼなどの酵素類、H i s - t a g、M y c - t a g、H A - t a g、F L A G - t a gまたはX p r e s s - t a gなどのタグペプチド類、マルトース結合蛋白質、および免疫グロブリンのF c断片などが挙げられる。また、標識化に用いる化学修飾物質としては、グリーン蛍光蛋白質、フルオレセインイソチオシアネートまたはフィコエリスリンなどの蛍光物質類、ビオチン、あるいは放射性同位元素などを例示できる。標識化するとき、これら蛋白質やペプチドなどは単独で付加してもよいし複数を組み合わせて付加することもできる。P A K 4、J I KまたはM K K 7のいずれかをコードするポリヌクレオチドは、ヒトcDNAライブラリーから自体公知の遺伝子工学的手法により調製することができる。P A K 4、J I KまたはM K K 7のいずれかをコードするポリヌクレオチドを含有するベクターは、上記ポリヌクレオチドを適当な発現ベクターDNA、例えば細菌プラスミド由来のベクターに自体公知の遺伝子工学的手法で導入することに

- より得られる。これらは試薬であるとき、PAK 4またはJIKとMKK 7の結合やPAK 4またはJIKによるMKK 7のリン酸化を検出するためのシグナルおよび／またはマーカー、バッファー、並びに塩など、必要とされる物質を含むことができる。さらに、安定化剤および／または防腐剤などの物質を含んでいてもよい。なお、製剤
- 5 化にあたっては、使用する各物質それぞれに応じた製剤化手段を導入すればよい。

実施例

以下、本発明を実施例に基づき具体的に説明するが、本発明は下記の実施例に限定されるものではない。

10

実施例 1 (MKK 7 と相互作用する機能を有する蛋白質のインシリコでの探索)

- MKK 7 と相互作用する機能を有する蛋白質を、国際公開第WO 01 / 6 7 2 9 9 号公報に記載の予測方法に従って予測した。すなわち、MKK 7 のアミノ酸配列をある長さのオリゴペプチドに分解し、各オリゴペプチドのアミノ酸配列あるいはそのア
- 15 ミノ酸配列と相同なアミノ酸配列を持った蛋白質をデータベース中で検索し、得られた蛋白質とMKK 7 との間でローカルアライメントを行い、ローカルアライメントのスコアの高いものをMKK 7 と相互作用すると予測した。

- 解析の結果、MKK 7 由来の 7 アミノ酸残基または 6 アミノ酸残基からなるオリゴペプチドDVWSLGI (配列番号 1) およびPPARPR (配列番号 2) と相同性
- 20 あるオリゴペプチドDIWSLGI (配列番号 3) およびPPARAR (配列番号 4) が、PAK 4 のアミノ酸配列中に存在することが分かった。第 1 図に、MKK 7 と PAK 4 とのローカルアライメントの結果を示した。この結果から、PAK 4 はMKK 7 と相互作用する機能を有する蛋白質であると予測された。

25 実施例 2 (PAK 4 によるMKK 7 リン酸化の解析)

PAK 4 によるMKK 7 の相互作用を実験的に確認するために、免疫複合体リン酸化法を用いたインビトロにおけるリン酸化試験を実施した。

<材料>

PAK 4 発現プラスミドを次のように構築した。まず、ヒト PAK 4 cDNA を、ヒト脳由来 poly (A) ⁺RNA (Clontech 社) から逆転写ポリメラーゼ連鎖反応 (RT-PCR) により取得し、次いで動物細胞用発現ベクター、p cDNA 3.1 (+) (Invitrogen 社) へ組込んだ。そのとき、5' 側に FLAG-tag コード配列または HA-tag コード配列を挿入し、動物細胞用 N 末端 FLAG-tag 付加型 PAK 4 発現プラスミド (p cDNA-FLAG-PAK 4) および動物細胞用 N 末端 HA-tag 付加型 PAK 4 発現プラスミド (p cDNA-HA-PAK 4) をそれぞれ構築した。

10 試験には、下記組成からなる各バッファーを用いた。

細胞溶解バッファー (Cell lysis buffer): 20mM Tris-HCl, pH 7.4, 150mM NaCl, 1mM エチレンジアミン四酢酸 (EDTA), 1mM エチレングリコールビス四酢酸 (EGTA), 1% Triton X-100, 2.5mM ピロリン酸ナトリウム (Na-pyrophosphate), 1mM β -グリセロホスフェート (glycerophosphate), 1mM Na_3VO_4 , プロテアーゼ阻害剤カクテル (protease inhibitor cocktail)、Cell Signaling Technology 社。

キナーゼバッファー (Kinase buffer): 25mM Tris-HCl, pH 7.5, 5mM β -グリセロホスフェート, 2mM ジチオスレイトール, 0.1mM Na_3VO_4 , 10mM MgCl_2 、Cell Signaling Technology 社。

SDS サンプルバッファー (SDS sample buffer): 4% SDS, 125mM Tris-HCl, pH 6.8, 20% グリセロール, 0.01% ブロムフェノールブルー (BPB), 10% β -メルカプトエタノール (mercaptoethanol)。

<方法>

細胞数 5×10^5 の HEK 293 細胞を 37°C 、 $5\% \text{CO}_2$ の条件下 $\phi 60 \text{ mm}$ のシャーレ中で一晩培養した後、 $5 \mu\text{g}$ の pcDNA-FLAG-PAK4 を、 $15 \mu\text{l}$ の FuGENE 6 トランスフェクション試薬 (FuGENE 6 Transfection Reagent、Roche 社) を用いてトランスフェクションした。陰性
5 コントロールとして pcDNA3.1 (+) を用い、同様にトランスフェクションした。2日間培養後、細胞を氷冷したリン酸緩衝生理食塩水 (−) [PBS (−)] で洗浄して回収し、 $500 \mu\text{l}$ の細胞溶解バッファーに懸濁し、氷上で10分間放置した。
ついで 4°C にて $14,000 \text{ rpm}$ で10分間遠心処理してその上清を回収し、細胞
溶解物 (cell lysate) とした。次に、 $500 \mu\text{l}$ の細胞溶解物に、アガ
10 ロースに結合した正常マウス IgG (Agarose-conjugated normal mouse IgG、Sigma 社) $20 \mu\text{l}$ を加え、 4°C にて30分間
転倒混和した後、遠心処理してその上清を回収した。回収した上清に $20 \mu\text{l}$ の抗
FLAG M2 アフィニティーゲル (anti-FLAG M2 affinity gel、Sigma 社) を加え、 4°C にて2時間転倒混和した後、遠心処理によりビ
15 ーズを回収し、さらにこのビーズを $500 \mu\text{l}$ の細胞溶解バッファーで2回、 500
 μl のキナーゼバッファーで2回洗浄した。次に、ビーズに $1 \mu\text{g}$ の基質と $10 \mu\text{M}$
の ATP および $5 \mu\text{Ci}$ の $[\gamma\text{-}^{32}\text{P}] \text{ATP}$ ($3,000 \text{ Ci/mmole}$ 、Per
kinElmer 社) を含む $25 \mu\text{l}$ のキナーゼバッファーを加え、 30°C にて30
分間リン酸化反応を行った。反応後、 $25 \mu\text{l}$ の $2 \times \text{SDS}$ サンプルバッファーを加
20 え、5分間煮沸後、上清を SDS-PAGE により分離し、BAS2000 (Fuji
film 社) を用いたオートラジオグラフィーによりリン酸化蛋白質を検出した。
なお、基質は、GST-MKK7 の不活性体 (inactive GST-MKK7、Upstate 社)、または、陰性コントロールとして GST をそれぞれ使用した。

<結果>

25 第2図に示したように、PAK4 による GST-MKK7 のリン酸化が認められた。
また、このリン酸化は PAK4 非存在では認められなかったことから、GST-MK
K7 のリン酸化は自己リン酸化ではなく、PAK4 によるものであることが明らかと

なった。なお、陰性コントロール用の基質として用いたGSTでは、リン酸化は認められなかった。

実施例3 (MKK7とPAK4の結合解析)

- 5 PAK4とMKK7の結合を実験的に確認するために、細胞内共発現/免疫共沈降法による結合試験を実施した。

<材料>

PAK4発現プラスミドは、実施例2で構築したものをを用いた。

- 10 MKK7発現プラスミドは次のように構築した。まず、ヒトMKK7 cDNAを、ヒト骨格筋由来poly (A)⁺RNA (Clontech社) からRT-PCRにより取得し、次いで動物細胞用発現ベクター、pcDNA3.1 (+) (Invitrogen社) へ組込んだ。その際、5'側にHA-tagコード配列を挿入し、動物細胞用N末端HA-tag付加型MKK7発現プラスミド、pcDNA-HA-MKK7を構築した。

- 15 試験に用いた各バッファの組成は、実施例2に記載のものと同一である。

<方法>

- 細胞数 4×10^5 のHEK293T細胞を37℃、5%CO₂の条件下φ60mmシャーレ中で一晩培養した後、2μgのpcDNA-FLAG-PAK4を2μgのpcDNA-HA-MKK7と共に、FuGENE6 Transfection Reagent (Roche社) を用いてトランスフェクションした。陰性コントロールとしてpcDNA3.1 (+) を用い、同様にトランスフェクションした。2日間培養後、細胞を氷冷したPBS (-) で洗浄して回収し、500μlの細胞溶解バッファに懸濁し、氷上で10分間放置した。ついで、4℃にて14,000rpmで10分間遠心処理してその上清を回収し、細胞溶解物とした。次に、500μlの細胞溶解物に20μlのAgarose-conjugated normal mouse IgG (Sigma社) を加え、4℃にて30分間転倒混和した後、遠心処理してその上清を回収した。回収した上清に20μlのanti-FLAG M2

affinity gel (Sigma社)を加え、4℃にて一晩転倒混和した後、遠心処理によりビーズを回収した。ビーズを500 μ lの細胞溶解バッファーで3回、次いで500 μ lのトリス緩衝生理食塩水(TBS: 25mM Tris-HCl, pH7.5, 150mM NaCl)で1回洗浄した後、20 μ lの2×SDSサン
5 プルバッファーを加え、5分間加熱後、上清を5-20%のSDS-PAGEにより分離した。その後、抗HA抗体(Y-11、SantaCruz社)を用いたウェスタンブロット法により結合蛋白質を検出した。なお、検出はECLウェスタンブロッ
ティング検出キット(ECL western blotting detection kit、Amersham pharmacia biotech社)を使用
10 した。

<結果>

第3図に示したように、抗FLAG抗体を用いてFLAG-PAK4の免疫沈降を実施した結果、FLAG-PAK4とHA-MKK7とを共発現させた細胞においてはHA-MKK7の共沈降が認められた。一方、FLAG-PAK4非発現細胞では
15 HA-MKK7の共沈降は認められなかったことから、この共沈降はアガロースビーズへの非特異的結合ではなく、FLAG-PAK4とHA-MKK7の結合を示すものであることが明らかとなった。これらから、PAK4とMKK7が細胞内で結合することが判明した。

20 実施例4 (PAK4によるJNK3シグナル伝達経路の活性化)

PAK4によるJNK3シグナル伝達経路の活性化を実験的に確認するために、インビトロにおけるJNK3リン酸化試験を、免疫複合体リン酸化法を用いて実施した。

<材料>

PAK4発現プラスミドは、実施例2で構築したものを用いた。

25 JNK3発現プラスミドは次のように構築した。まず、ヒトJNK3 cDNAを、ヒト海馬cDNAライブラリーからRT-PCRにより取得し、次いで動物細胞用発現ベクター、pcDNA3.1(+)(Invitrogen社)へ組込んだ。その際、

5'側にFLAG-tagコード配列を挿入し、動物細胞用N末端FLAG-tag付加型JNK3発現プラスミド、p cDNA-FLAG-JNK3を構築した。

また、c-Jun (1-79) (c-JunのN末端79アミノ酸領域であり、JNKによるリン酸化部位を含む) を、N末端にGST (Glutathione S-transferase) を付加した融合蛋白質〔以下、GST-c-Jun (1-79)〕として大腸菌にて発現後、グルタチオン セファロース 4B (Glutathione sepharose 4B、Amersham Pharmacia biotech社) で精製し、使用した。

試験に用いた各溶液の組成は、実施例2に記載のものと同じである。

10 <方法>

細胞数 6×10^5 のHEK293細胞を37°C、5%CO₂の条件下φ60mmのシャーレ中で一晩培養した後、p cDNA-FLAG-JNK3 (2 μg) とp cDNA-HA-PAK4 (0、0.1、0.5、または2 μg) を12 μlのFuGENE6 Transfection Reagent (Roche社) を用いてトランスフェクションした。なお、DNAの総量はp cDNA3.1 (+) を用いて全て4 μgに調整した。2日間培養後、細胞を氷冷したPBS (-) で洗浄して回収後、500 μlの細胞溶解バッファーに懸濁し、氷上で10分間放置した。ついで、4°Cにて14,000 rpmで10分間遠心処理してその上清を回収し、細胞溶解物とした。次に、500 μlの細胞溶解物に20 μlのAgarose-conjugated normal mouse IgG (Sigma社) を加え、4°Cにて30分間転倒混和した後、遠心処理してその上清を回収した。回収した上清に20 μlのanti-FLAG M2 affinity gel (Sigma社) を加え、4°Cにて2時間転倒混和した後、遠心処理によりビーズを回収し、さらにビーズを500 μlの細胞溶解バッファーで2回、500 μlのキナーゼバッファーで2回洗浄した。次に、ビーズに基質として2 μgのGST-c-Jun (1-79) と10 μM ATPおよび5 μCiの[γ-³²P] ATP (3,000 Ci/mmol、PerkinElmer社) を含む25 μlのキナーゼバッファーを加え、30°Cにて30分間リン酸

化反応を行った。反応後、 $25\mu\text{l}$ の $2\times\text{SDS}$ サンプルバッファーを加え、 100°C にて5分間処理後、上清を $5-20\%$ SDS-PAGE により分離し、 BAS2000 (Fujifilm 社)を用いたオートラジオグラフィーによりリン酸化された GST-c-Jun (1-79)を検出した。なお、各蛋白質の発現は、抗 FLAG G M2モノクローナル抗体 (Sigma 社) または抗 HA 抗体 (Y-11 、 Santa Cruz 社)を用いたウェスタンブロット法により確認した。

<結果>

第4図に示すように、 HA-PAK4 と FLAG-JNK3 を共発現させた細胞の溶解物を用いたキナーゼアッセイにおいて、 HA-PAK4 の発現量に依存して、リン酸化 c-Jun が増加した。すなわち、 HA-PAK4 の発現により、 JNK3 の c-Jun リン酸化活性が上昇することが明らかになった。 FLAG-JNK3 の発現量には大きな変動がないことから、 JNK3 活性の上昇は HA-PAK4 の発現によるものと考えられる。

実施例2、3および4で得られた結果から、 PAK4 が MKK7 に結合してこれを直接リン酸化することにより、 JNK3 が活性化されて c-Jun がリン酸化されること、すなわち JNK3 シグナル伝達経路が活性化されることが判明した。

実施例5 (MKK7と相互作用する機能を有する蛋白質のインシリコでの探索)

MKK7 と相互作用する機能を有する蛋白質を、実施例1と同様の方法で予測した。その結果、 MKK7 由来の6アミノ酸残基からなるオリゴペプチド、 WSLGIS (配列番号5) および LEAKLK (配列番号6)、と相同性のあるオリゴペプチド、 WSLGIT (配列番号7) および LENKLIK (配列番号8) が、 JIK のアミノ酸配列中に存在することが分かった。第5図に、 MKK7 と JIK とのローカルアライメントの結果を示した。この結果から、 JIK は MKK7 と相互作用する機能を有する蛋白質であると予測された。

実施例6 (JIK による MKK7 リン酸化の解析)

J I KによるMKK 7のリン酸化を実験的に確認するために、免疫複合体リン酸化法を用いたインビトロにおけるリン酸化試験を実施した。

<材料>

J I K発現プラスミドを次のように構築した。まず、ヒトJ I K cDNAを、ヒト腎臓由来poly (A)⁺RNA (Clontech社) からRT-PCRにより取得し、次いで動物細胞用発現ベクター、pcDNA3.1 (+) (Invitrogen社) へ組込んだ。そのとき、5'側にHA-tagコード配列を挿入し、動物細胞用N末端HA-tag付加型J I K発現プラスミド、pcDNA-HA-J I Kを構築した。なお、クローニングしたJ I K cDNAのアミノ酸翻訳配列は、NCBI (National Center for Biotechnology Information) の蛋白質データベースに開示されたアクセッション番号XP_045006 (登録遺伝子名: J I K) のものと同一である。

試験に用いた各バッファの組成は、実施例2に記載のものと同一である。

<方法>

細胞数 4×10^5 のHEK293T細胞を37℃、5%CO₂の条件下φ60mmのシャーレ中で一晚培養した後、5μgのpcDNA-HA-J I Kを、15μlのFUGENE6 Transfection Reagent (Roche社) を用いてトランスフェクションした。陰性コントロールとしてpcDNA3.1 (+) を用い、同様にトランスフェクションした。2日間培養後、細胞を氷冷したPBS (-) で洗浄して回収し、500μlの細胞溶解バッファに懸濁し、氷上で10分間放置した。ついで4℃にて14,000rpmで10分間遠心処理してその上清を回収し、細胞溶解物とした。次に、500μlの細胞溶解物に、Agarose-conjugated normal mouse IgG (Sigma社) 20μlを加え、4℃にて30分間転倒混和した後、遠心処理してその上清を回収した。回収した上清に20μlの抗HAアフィニティマトリックス (anti-HA affinity matrix、Roche社) を加え、4℃にて2時間転倒混和した後、遠心処理によりビーズを回収し、さらにこのビーズを500μlの細胞溶解バッファで2

回、500 μ lのキナーゼバッファーで2回洗浄した。次に、ビーズに1 μ gの基質と10 μ MのATPおよび5 μ Ciの $[\gamma\text{-}^{32}\text{P}]$ ATP (3,000 Ci/mmol、PerkinElmer社)を含む25 μ lのキナーゼバッファーを加え、30℃にて30分間リン酸化反応を行った。反応後、25 μ lの2×SDSサンプルバッ
5 ファーを加え、5分間煮沸後、上清をSDS-PAGEにより分離し、BAS2000 (Fuji film社)を用いたオートラジオグラフィーによりリン酸化蛋白質を検出した。なお、基質は、GST-MKK7の不活性体 (inactive GST-MKK7、Upstate社)、または、陰性コントロールとしてGSTをそれぞれ使用した。

10 <結果>

第6図に示したように、JIKによるGST-MKK7のリン酸化が認められた。また、このリン酸化はJIK非存在下では認められなかったことから、GST-MKK7のリン酸化は自己リン酸化ではなく、JIKによるものであることが明らかとなった。なお、陰性コントロール用の基質として用いたGSTでは、リン酸化は認め
15 れなかった。

実施例7 (MKK7とJIKの結合解析)

JIKとMKK7の結合を実験的に確認するために、細胞内共発現/免疫共沈降法による結合試験を実施した。

20 <材料>

JIK発現プラスミドは、実施例6で構築したものをを用いた。

MKK7発現プラスミドは次のように構築した。まず、ヒトMKK7 cDNAを、ヒト骨格筋由来poly (A)⁺RNA (Clontech社)からRT-PCRにより取得し、次いで動物細胞用発現ベクター、pcDNA3.1 (+) (Invitrogen社)へ組込んだ。その際、5'側にFLAG-tagコード配列を挿入し、
25 動物細胞用N末端FLAG-tag付加型MKK7発現プラスミド、pcDNA-FLAG-MKK7を構築した。

試験に用いた各バッファの組成は、実施例2に記載のものと同一である。

<方法>

細胞数 4×10^5 の HEK 293 T 細胞を 37°C 、 $5\% \text{CO}_2$ の条件下 $\phi 60 \text{ mm}$ シャーレ中で一晚培養した後、 $2 \mu\text{g}$ の p c DNA-HA-J I K を $2 \mu\text{g}$ の p c DN
5 A-FLAG-MKK 7 と共に、FuGENE 6 Transfection Reagent (Roche 社) を用いてトランスフェクションした。陰性コントロールとして p c DNA 3. 1 (+) を用いて、同様にトランスフェクションした。2 日間培養後、細胞を氷冷した PBS (-) で洗浄して回収し、 $500 \mu\text{l}$ の細胞溶解バッ
10 10 分間遠心処理してその上清を回収し、細胞溶解物とした。次に、 $500 \mu\text{l}$ の細胞溶解物に $20 \mu\text{l}$ の Agarose-conjugated normal mouse IgG (Sigma 社) を加え、 4°C にて 30 分間転倒混和した後、遠心処理してその上清を回収した。回収した上清に $20 \mu\text{l}$ の anti-HA affinity matrix (Roche 社) を加え、 4°C にて一晚転倒混和した後、遠心処
15 理によりビーズを回収した。ビーズを $500 \mu\text{l}$ の細胞溶解バッファで 3 回、次いで $500 \mu\text{l}$ の TBS (25 mM Tris-HCl , $\text{pH } 7.5$, 150 mM NaCl) で 1 回洗浄した後、 $20 \mu\text{l}$ の $2 \times \text{SDS}$ サンプルバッファを加え、5 分間加熱後、上清を 5-20% の SDS-PAGE により分離した。その後、抗 FLAG M2 抗体 (Sigma 社) を用いたウェスタンブロット法により結合蛋白質を検
20 出した。なお、検出は ECL ウェスタンブロッティング検出キットを使用した。

<結果>

第 7 図に示したように、抗 HA 抗体を用いて HA-J I K の免疫沈降を実施した結果、HA-J I K と FLAG-MKK 7 とを共発現させた細胞においては、FLAG-MKK 7 の共沈降が認められた。一方、HA-J I K 非発現細胞では FLAG-M
25 KK 7 の共沈降は認められなかったことから、この共沈降はアガロースビーズへの非特異的結合ではなく、HA-J I K と FLAG-MKK 7 の結合を示すものであることが明らかとなった。これらから、J I K と MKK 7 が細胞内で結合することが判明

した。

実施例 8 (J I Kによる J N K 3 シグナル伝達経路の活性化)

J I Kによる J N K 3 シグナル伝達経路の活性化を実験的に確認するために、イン
5 ビトロにおける J N K 3 リン酸化試験を、免疫複合体リン酸化法を用いて実施した。

<材料>

J N K 3 発現プラスミドは、実施例 4 で構築したものをを用いた。

J I K 発現プラスミドは、実施例 6 で構築したものをを用いた。

G S T - c - J u n (1 - 7 9) は実施例 4 と同様に調製した。

10 試験に用いた各バッファの組成は、実施例 2 に記載のものと同じである。

<方法>

細胞数 4×10^5 の H E K 2 9 3 T 細胞を 37°C 、 $5\% \text{CO}_2$ の条件下 $\phi 60 \text{ mm}$ の
シャーレ中で一晚培養した後、 $2 \mu\text{g}$ の p c D N A - H A - J I K を、 $2 \mu\text{g}$ の p c
D N A - F L A G - J N K 3 と共に、F u G E N E 6 T r a n s f e c t i o n
15 R e a g e n t (R o c h e 社) を用いてトランスフェクションした。陰性コントロ
ールとして p c D N A 3 . 1 (+) を用いて同様にトランスフェクションした。2 日
間培養後、細胞を氷冷した P B S (-) で洗浄して回収後、 $500 \mu\text{l}$ の細胞溶解バ
ッファに懸濁し、氷上で 10 分間放置した。ついで 4°C にて 14, 000 r p m で
10 分間遠心処理してその上清を回収し、細胞溶解物とした。次に、 $500 \mu\text{l}$ の細
20 胞溶解物に $20 \mu\text{l}$ の A g a r o s e - c o n j u g a t e d n o r m a l m o
u s e I g G (S i g m a 社) を加え、 4°C にて 30 分間転倒混和した後、遠心処
理してその上清を回収した。回収した上清に $20 \mu\text{l}$ の a n t i - F L A G M 2
a f f i n i t y g e l (S i g m a 社) を加え、 4°C にて 2 時間転倒混和した後、
遠心処理によりビーズを回収し、さらにビーズを $500 \mu\text{l}$ の細胞溶解バッファで
25 2 回、 $500 \mu\text{l}$ のキナーゼバッファで 2 回洗浄した。次に、ビーズに基質として
 $2 \mu\text{g}$ の G S T - c - J u n (1 - 7 9) と $10 \mu\text{M}$ A T P および $5 \mu\text{Ci}$ の $[\gamma$
- ^{32}P] A T P (3000 C i / m m o l , P e r k i n E l m e r 社) を含む 25

μ l のキナーゼバッファーを加え、30℃にて30分間リン酸化反応を行った。反応後、25 μ l の2×SDSサンプルバッファーを加え、100℃にて5分間処理後、上清を5－20% SDS-PAGEにより分離し、BAS2000 (Fujifilm社) を用いたオートラジオグラフィーによりリン酸化されたGST-c-Jun (1-79) を検出した。

<結果>

第8図に示すように、HA-JIKとFLAG-JNK3を共発現させた細胞の溶解物を用いたキナーゼアッセイにおいて、FLAG-JNK3のみを発現させた細胞の溶解物と比較してリン酸化c-Junが増加した。すなわち、HA-JIKの発現により、JNK3のc-Junリン酸化活性が上昇することが明らかになった。

実施例6、7および8で得られた結果から、JIKがMKK7に結合してこれを直接リン酸化することにより、JNK3が活性化されてc-Junがリン酸化されること、すなわちJNK3シグナル伝達経路が活性化されることが判明した。

15 産業上の利用可能性

本発明においては、PAK4およびJIKがそれぞれMKK7と結合すること、さらに、PAK4およびJIKのいずれもMKK7を直接リン酸化すること、その結果JNK3シグナル伝達経路が活性されることを初めて見出した。

PAK4がJNKシグナル伝達経路を活性化することは従来知られていたが、その機構は不明であった。PAK4はcdc42によって活性化されるが、cdc42の活性化はJNKシグナル伝達経路の活性化を介して神経細胞死を引き起こす。よって、JNK3シグナル伝達経路の活性化による神経細胞死において、PAK4によるMKK7のリン酸化が関与していると考えられる。

JIKがERストレスの負荷によるJNK活性化に関与していることは今までに報告されているが、その機構は不明であった。ERストレスはJNKシグナル伝達経路の活性化を介して、神経細胞死を引き起こす。よって、ERストレスの負荷によるJNK3シグナル伝達経路の活性化による神経細胞死において、JIKによるMKK7

のリン酸化が関与していると考えられる。

したがって、PAK 4 または J I K と MKK 7 の結合、あるいは PAK 4 または J I K による MKK 7 のリン酸化を阻害することにより、JNK 3 シグナル伝達経路の活性化によって引き起こされる c - J u n のリン酸化を阻害することができ、ひいては神経細胞死を阻害することができる。

PAK 4 および J I K がいずれも MKK 7 を直接的にリン酸化することから、これらは異なった経路で MKK 7 をリン酸化することにより JNK 3 シグナル伝達経路の活性化に関与していると考えられる。よって、PAK 4 による MKK 7 のリン酸化および J I K による MKK 7 のリン酸化の両方を阻害することにより、どちらか一方による MKK のリン酸化を阻害するよりも、c - J u n のリン酸化の阻害においてより高い効果が得られると考える。

本発明はこのように、JNK 3 シグナル伝達経路の活性化によって引き起こされる疾患、例えば神経細胞死に基づく疾患、具体的には、神経変性疾患の予防・治療のために、また、神経変性疾患や JNK シグナル伝達機構の研究のために、非常に有用である。

配列表フリーテキスト

配列番号 1 : PAK 4 の部分配列 (配列番号 3) と高い相同性を有する、MKK 7 の部分配列。

20 配列番号 2 : PAK 4 の部分配列 (配列番号 4) と高い相同性を有する、MKK 7 の部分配列。

配列番号 3 : MKK 7 の部分配列 (配列番号 1) と高い相同性を有する、PAK 4 の部分配列。

25 配列番号 4 : MKK 7 の部分配列 (配列番号 2) と高い相同性を有する、PAK 4 の部分配列。

配列番号 5 : J I K の部分配列 (配列番号 7) と高い相同性を有する、MKK 7 の部分配列。

配列番号 6 : J I K の部分配列 (配列番号 8) と高い相同性を有する、M K K 7 の部分配列。

配列番号 7 : M K K 7 の部分配列 (配列番号 5) と高い相同性を有する、J I K の部分配列。

- 5 配列番号 8 : M K K 7 の部分配列 (配列番号 6) と高い相同性を有する、J I K の部分配列。

配列番号 9 : M K K 7 と P A K 4 とのローカルアライメントにおいて高いスコアを示した M K K 7 の部分配列。

- 10 配列番号 10 : M K K 7 と P A K 4 とのローカルアライメントにおいて高いスコアを示した P A K 4 の部分配列。

配列番号 11 : M K K 7、P A K 4 および J I K の配列において一致する部分配列。

配列番号 12 : M K K 7 と P A K 4 とのローカルアライメントにおいて高いスコアを示した M K K 7 の部分配列。

- 15 配列番号 13 : M K K 7 と P A K 4 とのローカルアライメントにおいて高いスコアを示した P A K 4 の部分配列。

配列番号 14 : M K K 7 と P A K 4 とのローカルアライメントにおいて高いスコアを示した M K K 7 の部分配列。

配列番号 15 : M K K 7 と P A K 4 とのローカルアライメントにおいて高いスコアを示した P A K 4 の部分配列。

- 20 配列番号 16 : M K K 7 と P A K 4 の配列において一致する部分配列。

配列番号 17 : M K K 7 と P A K 4 とのローカルアライメントにおいて高いスコアを示した M K K 7 の部分配列。

配列番号 18 : M K K 7 と P A K 4 とのローカルアライメントにおいて高いスコアを示した P A K 4 の部分配列。

- 25 配列番号 19 : M K K 7 と P A K 4 とのローカルアライメントにおいて高いスコアを示した M K K 7 の部分配列。

配列番号 20 : M K K 7 と P A K 4 とのローカルアライメントにおいて高いスコアを

示した PAK 4 の部分配列。

配列番号 2 1 : MKK 7 と PAK 4 とのローカルアライメントにおいて高いスコアを示した MKK 7 の部分配列。

配列番号 2 2 : MKK 7 と PAK 4 とのローカルアライメントにおいて高いスコアを

5 示した PAK 4 の部分配列。

配列番号 2 3 : MKK 7 と PAK 4 とのローカルアライメントにおいて高いスコアを示した MKK 7 の部分配列。

配列番号 2 4 : MKK 7 と PAK 4 とのローカルアライメントにおいて高いスコアを示した PAK 4 の部分配列。

10 配列番号 2 5 : MKK 7 と PAK 4 とのローカルアライメントにおいて高いスコアを示した MKK 7 の部分配列。

配列番号 2 6 : MKK 7 と PAK 4 とのローカルアライメントにおいて高いスコアを示した PAK 4 の部分配列。

配列番号 2 7 : MKK 7 と PAK 4 とのローカルアライメントにおいて高いスコアを

15 示した MKK 7 の部分配列。

配列番号 2 8 : MKK 7 と PAK 4 とのローカルアライメントにおいて高いスコアを示した PAK 4 の部分配列。

配列番号 2 9 : MKK 7 と J I K とのローカルアライメントにおいて高いスコアを示した MKK 7 の部分配列。

20 配列番号 3 0 : MKK 7 と J I K とのローカルアライメントにおいて高いスコアを示した J I K の部分配列。

配列番号 3 1 : MKK 7 と J I K とのローカルアライメントにおいて高いスコアを示した MKK 7 の部分配列。

配列番号 3 2 : MKK 7 と J I K とのローカルアライメントにおいて高いスコアを示した J I K の部分配列。

25

配列番号 3 3 : MKK 7 と J I K とのローカルアライメントにおいて高いスコアを示した MKK 7 の部分配列。

配列番号 34 : MKK 7 と J I K とのローカルアライメントにおいて高いスコアを示した J I K の部分配列。

配列番号 35 : MKK 7 と J I K とのローカルアライメントにおいて高いスコアを示した MKK 7 の部分配列。

- 5 配列番号 36 : MKK 7 と J I K とのローカルアライメントにおいて高いスコアを示した J I K の部分配列。

配列番号 37 : MKK 7 と J I K とのローカルアライメントにおいて高いスコアを示した MKK 7 の部分配列。

- 10 配列番号 38 : MKK 7 と J I K とのローカルアライメントにおいて高いスコアを示した J I K の部分配列。

配列番号 39 : MKK 7 と J I K とのローカルアライメントにおいて高いスコアを示した MKK 7 の部分配列。

配列番号 40 : MKK 7 と J I K とのローカルアライメントにおいて高いスコアを示した J I K の部分配列。

- 15 配列番号 41 : MKK 7 と J I K とのローカルアライメントにおいて高いスコアを示した MKK 7 の部分配列。

配列番号 42 : MKK 7 と J I K とのローカルアライメントにおいて高いスコアを示した J I K の部分配列。

- 20 配列番号 43 : MKK 7 と J I K とのローカルアライメントにおいて高いスコアを示した MKK 7 の部分配列。

配列番号 44 : MKK 7 と J I K とのローカルアライメントにおいて高いスコアを示した J I K の部分配列。

配列番号 45 : MKK 7 と J I K とのローカルアライメントにおいて高いスコアを示した MKK 7 の部分配列。

- 25 配列番号 46 : MKK 7 と J I K とのローカルアライメントにおいて高いスコアを示した J I K の部分配列。

請求の範囲

1. 下記 i) から iv) のうちの少なくとも 1 つを特徴とする、c-Jun N末端
キナーゼ 3 による c-Jun リン酸化の阻害剤；

5 i) p21 活性化キナーゼ 4 (PAK4) と MAP キナーゼキナーゼ 7 (MKK
7) の結合阻害、

ii) PAK4 による MKK7 のリン酸化の阻害、

10 iii) JNK/SAPK-インヒビトリキナーゼ (JNK/SAPK-inhibitory
kinase; JIK) と MAP キナーゼキナーゼ 7 (MKK
K7) の結合阻害、

および

iv) JIK による MKK7 のリン酸化の阻害。

2. 下記 i) から iv) のうちの少なくとも 1 つを特徴とする、c-Jun N末端
キナーゼ 3 による c-Jun リン酸化の阻害方法；

15 i) p21 活性化キナーゼ 4 (PAK4) と MAP キナーゼキナーゼ 7 (MKK
7) の結合阻害、

ii) PAK4 による MKK7 のリン酸化の阻害、

20 iii) JNK/SAPK-インヒビトリキナーゼ (JNK/SAPK-inhibitory
kinase; JIK) と MAP キナーゼキナーゼ 7 (MKK
K7) の結合阻害、

および

iv) JIK による MKK7 のリン酸化の阻害。

3. 下記 i) から iv) のうちの少なくとも 1 つを特徴とする、c-Jun N末端
キナーゼ 3 による c-Jun リン酸化に基づく疾患の防止剤および／または治
療剤；

25

i) p21 活性化キナーゼ 4 (PAK4) と MAP キナーゼキナーゼ 7 (MKK
7) の結合阻害、

- ii) PAK 4によるMKK 7のリン酸化の阻害、
- iii) JNK/SAPK-インヒビトリキナーゼ (JNK/SAPK-inhibitory kinase; JIK) とMAPキナーゼキナーゼ7 (MKK 7) の結合阻害、

5 および

- iv) JIKによるMKK 7のリン酸化の阻害。

4. 下記i) からiv) のうちの少なくとも1つを特徴とする、神経変性疾患の防止剤および/または治療剤;

- i) p 2 1 活性化キナーゼ4 (PAK 4) とMAPキナーゼキナーゼ7 (MKK 7) の結合阻害、
- 10 ii) PAK 4によるMKK 7のリン酸化の阻害、
- iii) JNK/SAPK-インヒビトリキナーゼ (JNK/SAPK-inhibitory kinase; JIK) とMAPキナーゼキナーゼ7 (MKK 7) の結合阻害、

15 および

- iv) JIKによるMKK 7のリン酸化の阻害。

5. 下記i) からiv) のうちの少なくとも1つを特徴とする、c-Jun N末端キナーゼ3によるc-Junリン酸化に基づく疾患の防止方法および/または治療方法;

- i) p 2 1 活性化キナーゼ4 (PAK 4) とMAPキナーゼキナーゼ7 (MKK 7) の結合阻害、
- 20 ii) PAK 4によるMKK 7のリン酸化の阻害、
- iii) JNK/SAPK-インヒビトリキナーゼ (JNK/SAPK-inhibitory kinase; JIK) とMAPキナーゼキナーゼ7 (MKK 7) の結合阻害、

25

および

- iv) JIKによるMKK 7のリン酸化の阻害。

6. 下記 i) から iv) のうちの少なくとも 1 つを特徴とする、神経変性疾患の防止方法および／または治療方法；

i) p 21 活性化キナーゼ 4 (PAK 4) と MAP キナーゼキナーゼ 7 (MKK 7) の結合阻害、

5 ii) PAK 4 による MKK 7 のリン酸化の阻害、

iii) JNK/SAPK-インヒビトリキナーゼ (JNK/SAPK-inhibitory kinase; JIK) と MAP キナーゼキナーゼ 7 (MKK 7) の結合阻害、

および

10 iv) JIK による MKK 7 のリン酸化の阻害。

7. p 21 活性化キナーゼ 4 (PAK 4) と MAP キナーゼキナーゼ 7 (MKK 7) の結合を阻害する化合物の同定方法であって、PAK 4 と MKK 7 とが結合する条件下で、PAK 4 および／または MKK 7 を被検化合物と接触させ、次いで、PAK 4 と MKK 7 との結合により生じるシグナルの存在、不存在または変化を検出することにより、被検化合物が PAK 4 と MKK 7 との結合を阻害するか否かを決定することを含む同定方法。

8. JNK/SAPK-インヒビトリキナーゼ (JNK/SAPK-inhibitory kinase; JIK) と MAP キナーゼキナーゼ 7 (MKK 7) の結合を阻害する化合物の同定方法であって、JIK と MKK 7 とが結合する条件下で、JIK および／または MKK 7 を被検化合物と接触させ、次いで、JIK と MKK 7 との結合により生じるシグナルの存在、不存在または変化を検出することにより、被検化合物が JIK と MKK 7 との結合を阻害するか否かを決定することを含む同定方法。

9. p 21 活性化キナーゼ 4 (PAK 4) による MAP キナーゼキナーゼ 7 (MKK 7) のリン酸化を阻害する化合物の同定方法であって、PAK 4 および／または MKK 7 と被検化合物を接触させ、MKK 7 のリン酸化を検出することのできるシグナルおよび／またはマーカーを使用する系を導入し、このシグナルおよび

／またはマーカの存在、不存在または変化を検出することにより、被検化合物がPAK 4によるMKK 7のリン酸化を阻害するか否かを決定する同定方法。

10. JNK/SAPK-インヒビトリキナーゼ (JNK/SAPK-inhibitory kinase; JIK) によるMAPキナーゼキナーゼ7 (MKK 7) のリン酸化を阻害する化合物の同定方法であって、JIKおよび／またはMKK 7と被検化合物を接触させ、MKK 7のリン酸化を検出することのできるシグナルおよび／またはマーカを使用する系を導入し、このシグナルおよび／またはマーカの存在、不存在または変化を検出することにより、被検化合物がJIKによるMKK 7のリン酸化を阻害するか否かを決定する同定方法。

11. 請求の範囲第7項から第10項のいずれか1項に記載の方法によって得られた化合物。

12. p21活性化キナーゼ4 (PAK 4) とMAPキナーゼキナーゼ7 (MKK 7) の結合を阻害する化合物。

13. JNK/SAPK-インヒビトリキナーゼ (JNK/SAPK-inhibitory kinase; JIK) とMAPキナーゼキナーゼ7 (MKK 7) の結合を阻害する化合物。

14. p21活性化キナーゼ4 (PAK 4) によるMAPキナーゼキナーゼ7 (MKK 7) のリン酸化を阻害する化合物。

15. JNK/SAPK-インヒビトリキナーゼ (JNK/SAPK-inhibitory kinase; JIK) によるMAPキナーゼキナーゼ7 (MKK 7) のリン酸化を阻害する化合物。

16. p21活性化キナーゼ4 (PAK 4) とMAPキナーゼキナーゼ7 (MKK 7) の結合阻害剤。

17. JNK/SAPK-インヒビトリキナーゼ (JNK/SAPK-inhibitory kinase; JIK) とMAPキナーゼキナーゼ7 (MKK 7) の結合阻害剤。

18. p21活性化キナーゼ4 (PAK 4) によるMAPキナーゼキナーゼ7 (M

KK 7) のリン酸化阻害剤。

19. JNK/SAPK-インヒビトリキナーゼ (JNK/SAPK-inhibitory kinase; JIK) によるMAPキナーゼキナーゼ7 (MKK 7) のリン酸化阻害剤。

5 20. 請求の範囲第11項から第15項に記載の化合物および請求の範囲第16項から第19項に記載の阻害剤の少なくとも1種以上を有効量含有してなる医薬組成物。

21. 請求の範囲第11項から第15項に記載の化合物および請求の範囲第16項から第19項に記載の阻害剤の少なくとも1種以上を有効量含有してなる、c-
10 -Jun N末端キナーゼ3によるc-Junリン酸化に基づく疾患の防止剤および/または治療剤。

22. 請求の範囲第11項から第15項に記載の化合物および請求の範囲第16項から第19項に記載の阻害剤の少なくとも1種以上を有効量含有してなる、神経変性疾患の防止剤および/または治療剤。

15 23. 神経変性疾患が、ポリグルタミン病、ハンチントン病、脊髄小脳失調症、球脊髄性筋萎縮症、歯状核赤核淡蒼球ルイ体萎縮症、アルツハイマー病、ダウン症、パーキンソン病、Lewy小体型痴呆症、多系統萎縮症、家族性筋萎縮性側索硬化症、進行性核上性麻痺、皮質基底核変性症、pick病、ファミリアル
20 ブリティッシュ デメンチア (familial British dementia)、クロイツフェルトーヤコブ (Creutzfeldt-Jakob) 病、ゲルストマンーストランスラー (Gerstmann-Strausler) 症候群、狂牛病 (ウシ海綿状脳症) (BSE)、またはニューロセルピン (neuroserpin) 封入体を伴う家族性痴呆症である請求の範囲第5項若しくは第22項に記載の防止剤および/または治療剤。

25 24. 請求の範囲第11項から第15項に記載の化合物および請求の範囲第16項から第19項に記載の阻害剤の少なくとも1種以上を使用することを特徴とする、c-Jun N末端キナーゼ3によるc-Junリン酸化に基づく疾患の

防止方法および／または治療方法。

25. 請求の範囲第11項から第15項に記載の化合物および請求の範囲第16項から第19項に記載の阻害剤の少なくとも1種以上を使用することを特徴とする、神経変性疾患の防止方法および／または治療方法。

5 26. 神経変性疾患が、ポリグルタミン病、ハンチントン病、脊髄小脳失調症、球脊髄性筋萎縮症、歯状核赤核淡蒼球ルイ体萎縮症、アルツハイマー病、ダウン症、パーキンソン病、Lewy小体型痴呆症、多系統萎縮症、家族性筋萎縮性側索硬化症、進行性核上性麻痺、皮質基底核変性症、pick病、ファミリーアルブリティッシュデメンチア (familial British dementia)、クロイツフェルトーヤコブ (Creutzfeldt-Jakob) 病、
10 ゲルストマンーストランスラー (Gerstmann-Strausler) 症候群、狂牛病 (ウシ海綿状脳症) (BSE)、またはニューロセルピン (neuroserpin) 封入体を伴う家族性痴呆症である請求の範囲第6項若しくは第25項に記載の防止方法および／または治療方法。

15 27. p21活性化キナーゼ4 (PAK4)、JNK/SAPK-インヒビトリキナーゼ (JNK/SAPK-inhibitory kinase; JIK)、PAK4をコードするポリヌクレオチド、JIKをコードするポリヌクレオチド、PAK4をコードするポリヌクレオチドを含有するベクターおよびJIKをコードするポリヌクレオチドを含有するベクターから選ばれる少なくとも1つと、
20 MAPキナーゼキナーゼ7 (MKK7)、MKK7をコードするポリヌクレオチドおよびMKK7をコードするポリヌクレオチドを含有するベクターから選ばれる少なくとも1つとを含んでなる試薬キット。

28. 請求の範囲第7項から第10項のいずれか1項に記載の同定方法に用いる試薬キットであって、p21活性化キナーゼ4 (PAK4)、JNK/SAPK-インヒビトリキナーゼ (JNK/SAPK-inhibitory kinase; JIK)、PAK4をコードするポリヌクレオチド、JIKをコードするポリヌクレオチド、PAK4をコードするポリヌクレオチドを含有するベクタ
25

一および J I K をコードするポリヌクレオチドを含有するベクターから選ばれる少なくとも 1 つと、MAP キナーゼキナーゼ 7 (MKK 7)、MKK 7 をコードするポリヌクレオチドおよび MKK 7 をコードするポリヌクレオチドを含有するベクターから選ばれる少なくとも 1 つとを含んでなる試薬キット。

1/6

第1図

Score = 57.7

299 YDIRADVWSLGLISLVELATGQFPY

(配列番号 9)

492 YGPEVDIWSLGLIMVIEMVDGEPPY

(配列番号10)

Y D WSLGI E G PY

(配列番号11)

Score = 45.3

120 LENLGEMSGTCGQVWKMFRKTGHVIAVKQM

(配列番号12)

321 LDNFIKIGEGSTGIVCIATVRSSGKLVAVKKM

(配列番号13)

L N G G G V R G AVK M

Score = 37.0

65 PTPPARPRHMLGLP

(配列番号14)

105 PPPPARARQENGMP

(配列番号15)

P PPAR R G P

(配列番号16)

Score = 31.4

361 LTKDHRKRPKYNKLLHSFIKR

(配列番号17)

553 LVRDPAQRATAAELLKHPFLAK

(配列番号18)

L D R LL H F

Score = 30.9

169 VVLKSHDCPYIVQCFGTFTNTDVFIAELM

(配列番号19)

368 VIMRDYQHENVVEMYSYLVGDELWVMEFL

(配列番号20)

V V ME

Score = 27.0

33 DISPQRPRPT-LQLPLANDGGSRSPPSESSPQHP (配列番号21)

226 DVAPNGPSAGGLAIPQSSSSSRPPTRARGAPSP (配列番号22)

D P P L P SR P P

Score = 27.9

58 SESSPQHPTPPARPR

(配列番号23)

240 PQSSSSSRPPTRAR

(配列番号24)

SS PP R R

Score = 26.9

51 GGSRSPPSESSPQHPTPPAR

(配列番号25)

235 GGLAIPQSSSSSRPPTRAR

(配列番号26)

GG P S SS P AR

Score = 25.1

34 ISPQRPRPTLQLPLANDGGSRS

(配列番号27)

299 VSHEQFRAALQL-VVDPGDPRS

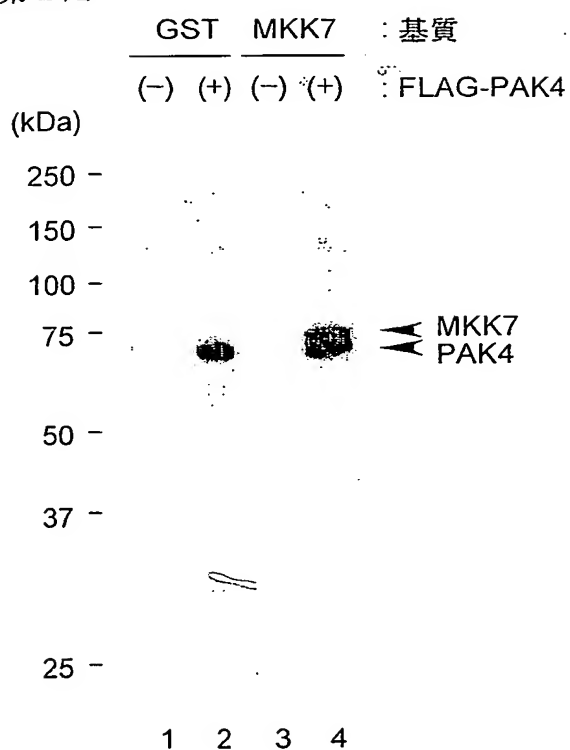
(配列番号28)

S R LQL G RS

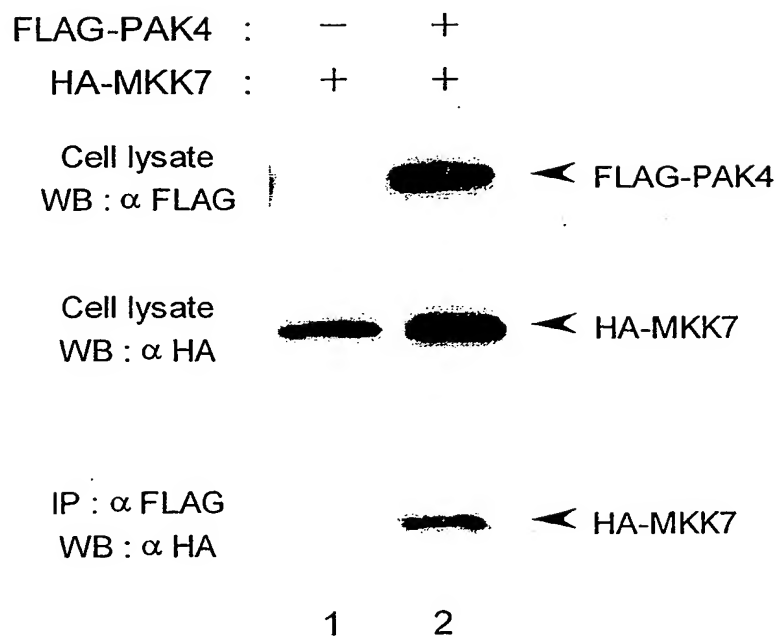
THIS PAGE BLANK (USPTO)

2/6

第2図



第3図

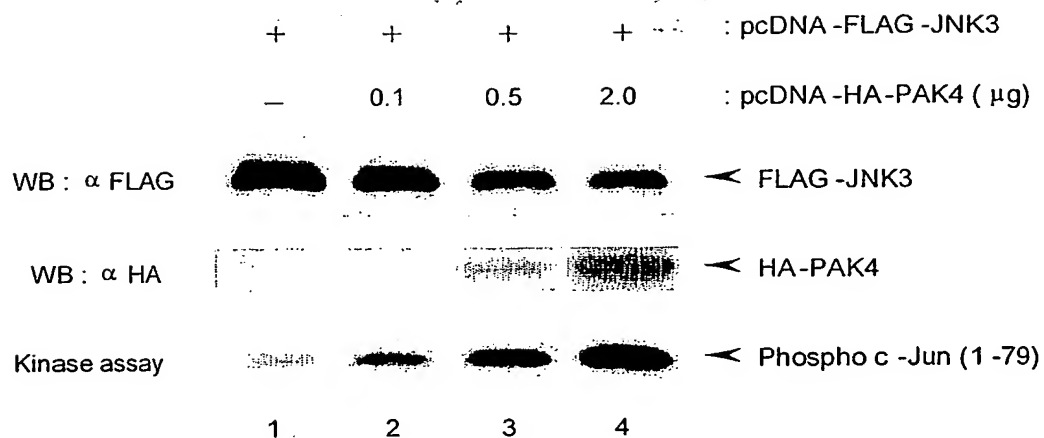


BEST AVAILABLE COPY

THIS PAGE BLANK (USPTO)

3/6

第4図



BEST AVAILABLE COPY

THIS PAGE BLANK (USPTO)

4/6

第5図

Score = 59.6

299 YDIRADVWSLGLSLVELA

(配列番号29)

198 YDGKVDIWSLGITCIELA

(配列番号30)

YD D WSLGI ELA

(配列番号11)

Score = 39.0

123 LGEMSGTTCGQVWKMFRKTGHVIAVKQMRRSGNK (配列番号31)

27 LHEIGHGSFGAVYFATNAHTSEVVAIKMSYSGKQ (配列番号32)

L E G G G V T V A K M S G

Score = 30.1

7 EQKLSRLEAKLKQENREARRR I

(配列番号33)

472 QKQLIALENKLKAEMDEHRLKL

(配列番号34)

L L E K L K E E R

Score = 28.9

91 EIDQKLQEIMKQTGYL

(配列番号35)

61 QTHEKWQDILKEVKFL

(配列番号36)

K Q I K L

Score = 29.3

102 QTGYLTIGGQRYQAEINDL

(配列番号37)

761 QTRKLAILAEQYEQSINEM

(配列番号38)

Q T L I Y I N

Score = 25.7

6 LEQKLSRLEAKLKQENRE

(配列番号39)

831 LEQRVSLRRRAHLEQKIEE

(配列番号40)

L E Q S A L Q E

Score = 26.4

111 QRYQAEINDLENL

(配列番号41)

291 QRTKDAVRELDNL

(配列番号42)

Q R L N L

Score = 26.3

201 TCAEKLKKRM

(配列番号43)

558 ICKEKIKEEM

(配列番号44)

C E K K M

Score = 26.7

236 KHGVIHRDVKPSNILLD

(配列番号45)

273 RHDFVRRD-RPLRVLID

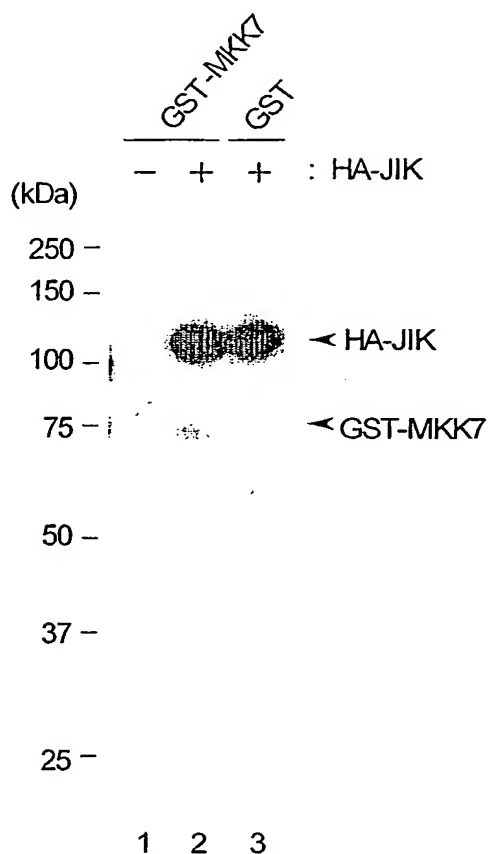
(配列番号46)

H R D P L D

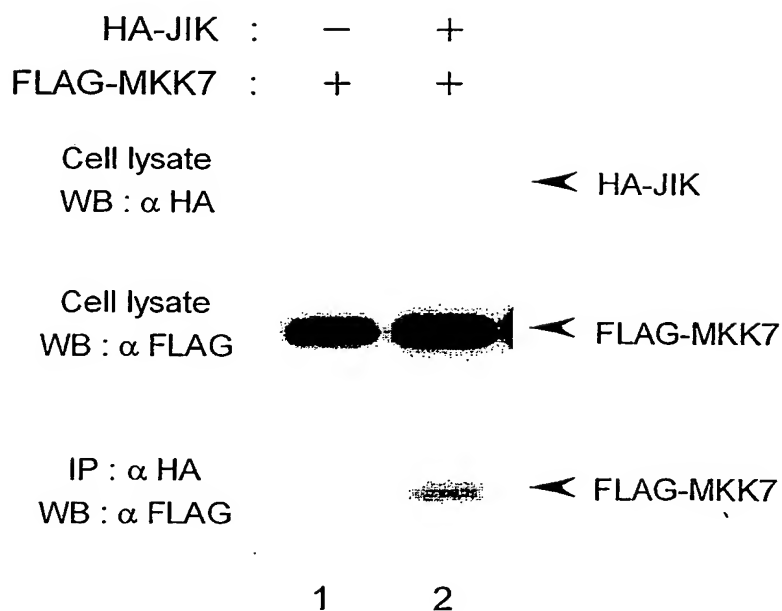
THIS PAGE BLANK (USP10)

5/6

第 6 図



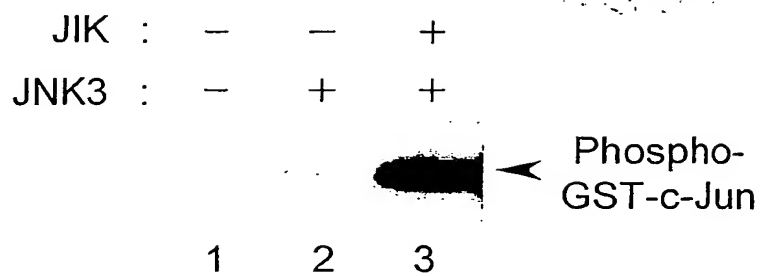
第 7 図



THIS PAGE BLANK (USPTO)

6/6

第8図



BEST AVAILABLE COPY

THIS PAGE BLANK (USPTO)

1/18

SEQUENCE LISTING

- <110> DAIICHI PHARMACEUTICAL CO., LTD.
CELESTAR LEXICO-SCIENCES, INC.
- <120> An inhibitor for MKK7 activation
- <130> GP03-1018PCT
- <150> JP P 2002-190909
<151> 2002-06-28
- <150> JP P 2002-190910
<151> 2002-06-28
- <160> 46
- <170> PatentIn version 3.1
- <210> 1
<211> 7
<212> PRT
<213> Homo sapiens
- <220>
<221> MISC_FEATURE
<223> Partial sequence of MKK7, which is highly homologous to that (SEQ
ID NO:3) of PAK4
- <400> 1
- Asp Val Trp Ser Leu Gly Ile
1 5
- <210> 2
<211> 6
<212> PRT
<213> Homo sapiens
- <220>
<221> MISC_FEATURE
<223> Partial sequence of MKK7, which is highly homologous to that (SEQ
ID NO:4) of PAK4
- <400> 2
- Pro Pro Ala Arg Pro Arg
1 5

2/18

<210> 3
<211> 7
<212> PRT
<213> Homo sapiens

<220>
<221> MISC_FEATURE
<223> Partial sequence of PAK4, which is highly homologous to that (SEQ
ID NO:1) of MKK7

<400> 3

Asp Ile Trp Ser Leu Gly Ile
1 5

<210> 4
<211> 6
<212> PRT
<213> Homo sapiens

<220>
<221> MISC_FEATURE
<223> Partial sequence of PAK4, which is highly homologous to that (SEQ
ID NO:2) of MKK7

<400> 4

Pro Pro Ala Arg Ala Arg
1 5

<210> 5
<211> 6
<212> PRT
<213> Homo sapiens

<220>
<221> misc_feature
<223> Partial sequence of MKK7, which is highly homologous to that (SEQ
ID NO:7) of JIK

<400> 5

Trp Ser Leu Gly Ile Ser
1 5

3/18

<210> 6
<211> 6
<212> PRT
<213> Homo sapiens

<220>
<221> misc_feature
<223> Partial sequence of MKK7, which is highly homologous to that (SEQ
ID NO:8) of JIK

<400> 6

Leu Glu Ala Lys Leu Lys
1 5

<210> 7
<211> 6
<212> PRT
<213> Homo sapiens

<220>
<221> misc_feature
<223> Partial sequence of JIK, which is highly homologous to that (SEQ
ID NO:5) of MKK7

<400> 7

Trp Ser Leu Gly Ile Thr
1 5

<210> 8
<211> 6
<212> PRT
<213> Homo sapiens

<220>
<221> misc_feature
<223> Partial sequence of JIK, which is highly homologous to that (SEQ
ID NO:6) of MKK7

<400> 8

Leu Glu Asn Lys Leu Lys
1 5

<210> 9

4/18

<211> 24
<212> PRT
<213> Homo sapiens

<220>
<221> MISC_FEATURE
<223> Partial sequence of MKK7, showing high score in the local alignment between MKK7 and PAK4

<400> 9

Tyr Asp Ile Arg Ala Asp Val Trp Ser Leu Gly Ile Ser Leu Val Glu
1 5 10 15

Leu Ala Thr Gly Gln Phe Pro Tyr
20

<210> 10
<211> 24
<212> PRT
<213> Homo sapiens

<220>
<221> misc_feature
<223> Partial sequence of PAK4, showing high score in the local alignment between MKK7 and PAK4

<400> 10

Tyr Gly Pro Glu Val Asp Ile Trp Ser Leu Gly Ile Met Val Ile Glu
1 5 10 15

Met Val Asp Gly Glu Pro Pro Tyr
20

<210> 11
<211> 5
<212> PRT
<213> Homo sapiens

<220>
<221> misc_feature
<223> Partial sequence identical in the sequences of MKK7, PAK4 and JIK

<400> 11

5/18

Trp Ser Leu Gly Ile
1 5

<210> 12

<211> 32

<212> PRT

<213> Homo sapiens

<220>

<221> MISC_FEATURE

<223> Partial sequence of MKK7, showing high score in the local alignment between MKK7 and PAK4

<400> 12

Leu Glu Asn Leu Gly Glu Met Gly Ser Gly Thr Cys Gly Gln Val Trp
1 5 10 15

Lys Met Arg Phe Arg Lys Thr Gly His Val Ile Ala Val Lys Gln Met
20 25 30

<210> 13

<211> 32

<212> PRT

<213> Homo sapiens

<220>

<221> misc_feature

<223> Partial sequence of PAK4, showing high score in the local alignment between MKK7 and PAK4

<400> 13

Leu Asp Asn Phe Ile Lys Ile Gly Glu Gly Ser Thr Gly Ile Val Cys
1 5 10 15

Ile Ala Thr Val Arg Ser Ser Gly Lys Leu Val Ala Val Lys Lys Met
20 25 30

<210> 14

<211> 14

<212> PRT

<213> Homo sapiens

6/18

<220>

<221> MISC_FEATURE

<223> Partial sequence of MKK7, showing high score in the local alignment between MKK7 and PAK4

<400> 14

Pro Thr Pro Pro Ala Arg Pro Arg His Met Leu Gly Leu Pro
1 5 10

<210> 15

<211> 14

<212> PRT

<213> Homo sapiens

<220>

<221> misc_feature

<223> Partial sequence of PAK4, showing high score in the local alignment between MKK7 and PAK4

<400> 15

Pro Pro Pro Pro Ala Arg Ala Arg Gln Glu Asn Gly Met Pro
1 5 10

<210> 16

<211> 4

<212> PRT

<213> Homo sapiens

<220>

<221> misc_feature

<223> Partial sequence identical in the sequences of MKK7 and PAK4

<400> 16

Pro Pro Ala Arg
1

<210> 17

<211> 22

<212> PRT

<213> Homo sapiens

<220>

<221> misc_feature

7/18

<223> Partial sequence of MKK7, showing high score in the local alignment between MKK7 and PAK4

<400> 17

Leu Thr Lys Asp His Arg Lys Arg Pro Lys Tyr Asn Lys Leu Leu Glu
1 5 10 15

His Ser Phe Ile Lys Arg
20

<210> 18

<211> 22

<212> PRT

<213> Homo sapiens

<220>

<221> misc_feature

<223> Partial sequence of PAK4, showing high score in the local alignment between MKK7 and PAK4

<400> 18

Leu Val Arg Asp Pro Ala Gln Arg Ala Thr Ala Ala Glu Leu Leu Lys
1 5 10 15

His Pro Phe Leu Ala Lys
20

<210> 19

<211> 31

<212> PRT

<213> Homo sapiens

<220>

<221> misc_feature

<223> Partial sequence of MKK7, showing high score in the local alignment between MKK7 and PAK4

<400> 19

Val Val Leu Lys Ser His Asp Cys Pro Tyr Ile Val Gln Cys Phe Gly
1 5 10 15

8/18

Thr Phe Ile Thr Asn Thr Asp Val Phe Ile Ala Met Glu Leu Met
20 25 30

<210> 20

<211> 31

<212> PRT

<213> Homo sapiens

<220>

<221> misc_feature

<223> Partial sequence of PAK4, showing high score in the local alignment between MKK7 and PAK4

<400> 20

Val Ile Met Arg Asp Tyr Gln His Glu Asn Val Val Glu Met Tyr Asn
1 5 10 15

Ser Tyr Leu Val Gly Asp Glu Leu Trp Val Val Met Glu Phe Leu
20 25 30

<210> 21

<211> 33

<212> PRT

<213> Homo sapiens

<220>

<221> misc_feature

<223> Partial sequence of MKK7, showing high score in the local alignment between MKK7 and PAK4

<400> 21

Asp Ile Ser Pro Gln Arg Pro Arg Pro Thr Leu Gln Leu Pro Leu Ala
1 5 10 15

Asn Asp Gly Gly Ser Arg Ser Pro Ser Ser Glu Ser Ser Pro Gln His
20 25 30

Pro

<210> 22

<211> 34

9/18

<212> PRT
<213> Homo sapiens

<220>
<221> misc_feature
<223> Partial sequence of PAK4, showing high score in the local alignment between MKK7 and PAK4

<400> 22

Asp Val Ala Pro Asn Gly Pro Ser Ala Gly Gly Leu Ala Ile Pro Gln
1 5 10 15

Ser Ser Ser Ser Ser Ser Arg Pro Pro Thr Arg Ala Arg Gly Ala Pro
20 25 30

Ser Pro

<210> 23
<211> 15
<212> PRT
<213> Homo sapiens

<220>
<221> misc_feature
<223> Partial sequence of MKK7, showing high score in the local alignment between MKK7 and PAK4

<400> 23

Ser Glu Ser Ser Pro Gln His Pro Thr Pro Pro Ala Arg Pro Arg
1 5 10 15

<210> 24
<211> 15
<212> PRT
<213> Homo sapiens

<220>
<221> misc_feature
<223> Partial sequence of PAK4, showing high score in the local alignment between MKK7 and PAK4

<400> 24

10/18

Pro Gln Ser Ser Ser Ser Ser Arg Pro Pro Thr Arg Ala Arg
1 5 10 15

<210> 25

<211> 20

<212> PRT

<213> Homo sapiens

<220>

<221> misc_feature

<223> Partial sequence of MKK7, showing high score in the local alignment between MKK7 and PAK4

<400> 25

Gly Gly Ser Arg Ser Pro Ser Ser Glu Ser Ser Pro Gln His Pro Thr
1 5 10 15

Pro Pro Ala Arg
20

<210> 26

<211> 20

<212> PRT

<213> Homo sapiens

<220>

<221> misc_feature

<223> Partial sequence of PAK4, showing high score in the local alignment between MKK7 and PAK4

<400> 26

Gly Gly Leu Ala Ile Pro Gln Ser Ser Ser Ser Ser Ser Arg Pro Pro
1 5 10 15

Thr Arg Ala Arg
20

<210> 27

<211> 22

<212> PRT

<213> Homo sapiens

11/18

<220>

<221> misc_feature

<223> Partial sequence of MKK7, showing high score in the local alignment between MKK7 and PAK4

<400> 27

Ile	Ser	Pro	Gln	Arg	Pro	Arg	Pro	Thr	Leu	Gln	Leu	Pro	Leu	Ala	Asn
1				5					10					15	

Asp	Gly	Gly	Ser	Arg	Ser
			20		

<210> 28

<211> 21

<212> PRT

<213> Homo sapiens

<220>

<221> misc_feature

<223> Partial sequence of PAK4, showing high score in the local alignment between MKK7 and PAK4

<400> 28

Val	Ser	His	Glu	Gln	Phe	Arg	Ala	Ala	Leu	Gln	Leu	Val	Val	Asp	Pro
1				5					10					15	

Gly	Asp	Pro	Arg	Ser
			20	

<210> 29

<211> 18

<212> PRT

<213> Homo sapiens

<220>

<221> misc_feature

<223> Partial sequence of MKK7, showing high score in the local alignment between MKK7 and JIK

<400> 29

Tyr	Asp	Ile	Arg	Ala	Asp	Val	Trp	Ser	Leu	Gly	Ile	Ser	Leu	Val	Glu
1				5					10					15	

12/18

Leu Ala

<210> 30
<211> 18
<212> PRT
<213> Homo sapiens

<220>
<221> misc_feature
<223> Partial sequence of JIK, showing high score in the local alignment between MKK7 and JIK

<400> 30

Tyr Asp Gly Lys Val Asp Ile Trp Ser Leu Gly Ile Thr Cys Ile Glu
1 5 10 15

Leu Ala

<210> 31
<211> 35
<212> PRT
<213> Homo sapiens

<220>
<221> misc_feature
<223> Partial sequence of MKK7, showing high score in the local alignment between MKK7 and JIK

<400> 31

Leu Gly Glu Met Gly Ser Gly Thr Cys Gly Gln Val Trp Lys Met Arg
1 5 10 15

Phe Arg Lys Thr Gly His Val Ile Ala Val Lys Gln Met Arg Arg Ser
20 25 30

Gly Asn Lys
35

13/18

<210> 32
<211> 35
<212> PRT
<213> Homo sapiens

<220>
<221> misc_feature
<223> Partial sequence of JIK, showing high score in the local alignment between MKK7 and JIK

<400> 32

Leu His Glu Ile Gly His Gly Ser Phe Gly Ala Val Tyr Phe Ala Thr
1 5 10 15

Asn Ala His Thr Ser Glu Val Val Ala Ile Lys Lys Met Ser Tyr Ser
20 25 30

Gly Lys Gln
35

<210> 33
<211> 22
<212> PRT
<213> Homo sapiens

<220>
<221> misc_feature
<223> Partial sequence of MKK7, showing high score in the local alignment between MKK7 and JIK

<400> 33

Glu Gln Lys Leu Ser Arg Leu Glu Ala Lys Leu Lys Gln Glu Asn Arg
1 5 10 15

Glu Ala Arg Arg Arg Ile
20

<210> 34
<211> 22
<212> PRT
<213> Homo sapiens

<220>

14/18

<221> misc_feature

<223> Partial sequence of JIK, showing high score in the local alignment between MKK7 and JIK

<400> 34

Gln	Lys	Gln	Leu	Ile	Ala	Leu	Glu	Asn	Lys	Leu	Lys	Ala	Glu	Met	Asp
1				5					10					15	

Glu	His	Arg	Leu	Lys	Leu
			20		

<210> 35

<211> 16

<212> PRT

<213> Homo sapiens

<220>

<221> misc_feature

<223> Partial sequence of MKK7, showing high score in the local alignment between MKK7 and JIK

<400> 35

Glu	Ile	Asp	Gln	Lys	Leu	Gln	Glu	Ile	Met	Lys	Gln	Thr	Gly	Tyr	Leu
1				5					10					15	

<210> 36

<211> 16

<212> PRT

<213> Homo sapiens

<220>

<221> misc_feature

<223> Partial sequence of JIK, showing high score in the local alignment between MKK7 and JIK

<400> 36

Gln	Thr	His	Glu	Lys	Trp	Gln	Asp	Ile	Leu	Lys	Glu	Val	Lys	Phe	Leu
1				5					10					15	

<210> 37

<211> 19

<212> PRT

15/18

<213> Homo sapiens

<220>

<221> misc_feature

<223> Partial sequence of MKK7, showing high score in the local alignment between MKK7 and JIK

<400> 37

Gln	Thr	Gly	Tyr	Leu	Thr	Ile	Gly	Gly	Gln	Arg	Tyr	Gln	Ala	Glu	Ile
1				5					10					15	

Asn Asp Leu

<210> 38

<211> 19

<212> PRT

<213> Homo sapiens

<220>

<221> misc_feature

<223> Partial sequence of JIK, showing high score in the local alignment between MKK7 and JIK

<400> 38

Gln	Thr	Arg	Lys	Leu	Ala	Ile	Leu	Ala	Glu	Gln	Tyr	Glu	Gln	Ser	Ile
1				5					10					15	

Asn Glu Met

<210> 39

<211> 18

<212> PRT

<213> Homo sapiens

<220>

<221> misc_feature

<223> Partial sequence of MKK7, showing high score in the local alignment between MKK7 and JIK

<400> 39

16/18

Leu Glu Gln Lys Leu Ser Arg Leu Glu Ala Lys Leu Lys Gln Glu Asn
1 5 10 15

Arg Glu

<210> 40
<211> 18
<212> PRT
<213> Homo sapiens

<220>
<221> misc_feature
<223> Partial sequence of JIK, showing high score in the local alignment between MKK7 and JIK

<400> 40

Leu Glu Gln Arg Val Ser Leu Arg Arg Ala His Leu Glu Gln Lys Ile
1 5 10 15

Glu Glu

<210> 41
<211> 13
<212> PRT
<213> Homo sapiens

<220>
<221> misc_feature
<223> Partial sequence of MKK7, showing high score in the local alignment between MKK7 and JIK

<400> 41

Gln Arg Tyr Gln Ala Glu Ile Asn Asp Leu Glu Asn Leu
1 5 10

<210> 42
<211> 13
<212> PRT
<213> Homo sapiens

<220>

17/18

<221> misc_feature
<223> Partial sequence of JIK, showing high score in the local alignment between MKK7 and JIK

<400> 42

Gln Arg Thr Lys Asp Ala Val Arg Glu Leu Asp Asn Leu
1 5 10

<210> 43
<211> 10
<212> PRT
<213> Homo sapiens

<220>
<221> misc_feature
<223> Partial sequence of MKK7, showing high score in the local alignment between MKK7 and JIK

<400> 43

Thr Cys Ala Glu Lys Leu Lys Lys Arg Met
1 5 10

<210> 44
<211> 10
<212> PRT
<213> Homo sapiens

<220>
<221> misc_feature
<223> Partial sequence of JIK, showing high score in the local alignment between MKK7 and JIK

<400> 44

Ile Cys Lys Glu Lys Ile Lys Glu Glu Met
1 5 10

<210> 45
<211> 17
<212> PRT
<213> Homo sapiens

<220>
<221> misc_feature

18/18

<223> Partial sequence of MKK7, showing high score in the local alignment between MKK7 and JIK

<400> 45

Lys His Gly Val Ile His Arg Asp Val Lys Pro Ser Asn Ile Leu Leu
1 5 10 15

Asp

<210> 46

<211> 16

<212> PRT

<213> Homo sapiens

<220>

<221> misc_feature

<223> Partial sequence of JIK, showing high score in the local alignment between MKK7 and JIK

<400> 46

Arg His Asp Phe Val Arg Arg Asp Arg Pro Leu Arg Val Leu Ile Asp
1 5 10 15

INTERNATIONAL SEARCH REPORT

International application No.

PCT/JP03/08179

A. CLASSIFICATION OF SUBJECT MATTER

Int.Cl⁷ A61K45/00, A61P25/00, 25/14, 25/16, 25/28

According to International Patent Classification (IPC) or to both national classification and IPC

B. FIELDS SEARCHED

Minimum documentation searched (classification system followed by classification symbols)

Int.Cl⁷ A61K45/00, A61P25/00, 25/14, 25/16, 25/28

Documentation searched other than minimum documentation to the extent that such documents are included in the fields searched

Electronic data base consulted during the international search (name of data base and, where practicable, search terms used)

CA(STN), MEDLINE(STN), EMBASE(STN), BIOSIS(STN),
SwissProt/PIR/GeneSeq

C. DOCUMENTS CONSIDERED TO BE RELEVANT

Category*	Citation of document, with indication, where appropriate, of the relevant passages	Relevant to claim No.
A	WO 99/01559 A1 (Asahi Chemical Industry Co., Ltd.), 14 January, 1999 (14.01.99), & AU 9879373 A1 & EP 1008650 A1 & US 6465618 B1	1,3-4,7-23, 27-28
A	Xiaoling Xie et al., Crystal Structure of JNK3: a kinase implicated in neuronal apoptosis, Structure, 1998, Vol.6, pages 983 to 991	1,3-4,7-23, 27-28
A	Atsushi IKEDA et al., Mixed Lineage Kinase LZK Forms a Functional Signaling Complex with JIP-1, a Scaffold Protein of the c-Jun NH ₂ -Terminal Kinase Pathway, J.Biochem., Vol.130, 2001, pages 773 to 781	1,3-4,7-23, 27-28

☒ Further documents are listed in the continuation of Box C.☐ See patent family annex.

* Special categories of cited documents:	"T" later document published after the international filing date or priority date and not in conflict with the application but cited to understand the principle or theory underlying the invention
"A" document defining the general state of the art which is not considered to be of particular relevance	"X" document of particular relevance; the claimed invention cannot be considered novel or cannot be considered to involve an inventive step when the document is taken alone
"E" earlier document but published on or after the international filing date	"Y" document of particular relevance; the claimed invention cannot be considered to involve an inventive step when the document is combined with one or more other such documents, such combination being obvious to a person skilled in the art
"L" document which may throw doubts on priority claim(s) or which is cited to establish the publication date of another citation or other special reason (as specified)	"&" document member of the same patent family
"O" document referring to an oral disclosure, use, exhibition or other means	
"P" document published prior to the international filing date but later than the priority date claimed	

Date of the actual completion of the international search
09 September, 2003 (09.09.03)Date of mailing of the international search report
24 September, 2003 (24.09.03)Name and mailing address of the ISA/
Japanese Patent Office

Authorized officer

Facsimile No.

Telephone No.

INTERNATIONAL SEARCH REPORT

International application No. .

PCT/JP03/08179

C (Continuation). DOCUMENTS CONSIDERED TO BE RELEVANT

Category*	Citation of document, with indication, where appropriate, of the relevant passages	Relevant to claim No.
A	Junji YAMAUCHI et al., Differential Regulation of Mitogenactivated Protein Kinase Kinase 4 (MKK4) and 7 (MKK7) by Signalin from G Protein β γ Subunit in Human Embryonal Kidney 293 Cells, The Journal of Biological Chemistry, Vol.274, No.4, 1999, pages 1957 to 1966	1, 3-4, 7-23, 27-28
A	Zhengbin Yao et al., Activation of Stress-activated Protein Kinases/c-Jun N-terminal Protein Kinases (SAPKs/JNKs) by a Novel Mitogen-activated Protein Kinase Kinase (MKK7), The Journal of Biological Chemistry, Vol.272, No.51, 1997, pages 32378 to 32383	1, 3-4, 7-23, 27-28
A	Cathy Tournier et al., The MKK7 Gene Encodes a Group of c-Jun NH ₂ -Terminal Kinase Kinases, Molecular and Cellular Biology, Vol.19, No.2, 1999, pages 1569 to 1581.	1, 3-4, 7-23, 27-28
A	Yi-Rong Chen et al., Mammalian c-Jun N-terminal kinase pathway and STE20-related kinases, Gene Ther.Mol.Biol., Vol.4, 1999, pages 83 to 98	1, 3-4, 7-23, 27-28
A	Ippeita Dan et al., The Ste20 group kinases as regulators of MAP kinase cascades, TRENDS in Cell Viology, Vol.11, No.5, 2001, pages 220 to 230	1, 3-4, 7-23, 27-28

INTERNATIONAL SEARCH REPORT

International application No.

PCT/JP03/08179

Box I Observations where certain claims were found unsearchable (Continuation of item 2 of first sheet)

This international search report has not been established in respect of certain claims under Article 17(2)(a) for the following reasons:

1. ☒ Claims Nos.: 2, 5-6, 24, 26

because they relate to subject matter not required to be searched by this Authority, namely:

Claims 2, 5 to 6 and 24 to 26 pertain to methods for treatment of the human body by therapy and thus relate to a subject matter which this International Searching Authority is not required, under the provisions of Article 17(2)(a)(i) of the PCT and Rule 39.1(iv) of the Regulations under the PCT, to search.

2. ☐ Claims Nos.:

because they relate to parts of the international application that do not comply with the prescribed requirements to such an extent that no meaningful international search can be carried out, specifically:

3. ☐ Claims Nos.:

because they are dependent claims and are not drafted in accordance with the second and third sentences of Rule 6.4(a).

Box II Observations where unity of invention is lacking (Continuation of item 3 of first sheet)

This International Searching Authority found multiple inventions in this international application, as follows:

Concerning c-Jun phosphorylation, claim 1 involves 4 inventions respectively having the following "special technical features", i.e., "inhibition of binding of PAK4 to MKK7", "inhibition of phosphorylation of MKK7 by PAK4", "inhibition of binding of JIK to MKK7" and "inhibition of phosphorylation of MKK7 by JIK". Since there is no technical relevancy involving one or more of the same or corresponding technical features among these inventions, they are not considered as relating to a group of inventions so linked as to form a single general inventive concept.

1. ☐ As all required additional search fees were timely paid by the applicant, this international search report covers all searchable claims.
2. ☒ As all searchable claims could be searched without effort justifying an additional fee, this Authority did not invite payment of any additional fee.
3. ☐ As only some of the required additional search fees were timely paid by the applicant, this international search report covers only those claims for which fees were paid, specifically claims Nos.:
4. ☐ No required additional search fees were timely paid by the applicant. Consequently, this international search report is restricted to the invention first mentioned in the claims; it is covered by claims Nos.:

Remark on Protest ☐ The additional search fees were accompanied by the applicant's protest.

☐ No protest accompanied the payment of additional search fees.

Claims 1, 3 to 4, 7 to 23 and 27 to 28 relate to c-Jun phosphorylation inhibitors each containing as the active ingredient a compound defined by a desired property, i.e., "inhibition of binding of PAK4 to MKK7", "inhibition of phosphorylation of MKK7 by PAK4", "inhibition of binding of JIK to MKK7" or "inhibition of phosphorylation of MKK7 by JIK". Although claims 1, 3 to 4, 7 to 23 and 27 to 28 involve any compounds having these properties, it is recognized that only parts of the claimed compounds are supported by the description in the meaning as described in PCT Article 6 and disclosed therein in the meaning as described in PCT Article 5.

Although the common technical knowledge at the point of the application is taken into consideration, the scope of the compound having "an activity of inhibiting binding of PAK4 to MKK7", "an activity of inhibiting phosphorylation of MKK7 by PAK4", "an activity of inhibiting binding of JIK to MKK7" or "an activity of inhibiting phosphorylation of MKK7 by JIK" cannot be specified. Thus, claims 1, 3 to 4, 7 to 23 and 27 to 28 also fail to fulfill the requirement of clearness as described in PCT Article 6.

A. 発明の属する分野の分類 (国際特許分類 (IPC))		
Int. Cl ⁷ A61K 45/00, A61P 25/00, 25/14, 25/16, 25/28		
B. 調査を行った分野		
調査を行った最小限資料 (国際特許分類 (IPC))		
Int. Cl ⁷ A61K 45/00, A61P 25/00, 25/14, 25/16, 25/28		
最小限資料以外の資料で調査を行った分野に含まれるもの		
国際調査で使用した電子データベース (データベースの名称、調査に使用した用語)		
CA (STN), MEDLINE (STN), EMBASE (STN), BIOSIS (STN), SwissProt/PIR/GeneSeq		
C. 関連すると認められる文献		
引用文献の カテゴリー*	引用文献名 及び一部の箇所が関連するときは、その関連する箇所の表示	関連する 請求の範囲の番号
A	WO 99/01559 A1 (旭化成工業株式会社) 1999. 01. 14 &AU 9879373 A1 &EP 1008650 A1 &US 6465618 B1	1, 3-4, 7-23, 27-28
A	Xiaoling Xie et al., Crystal Structure of JNK3: a kinase implicated in neuronal apoptosis, Structure, 1998, Vol. 6, p. 983-991	1, 3-4, 7-23, 27-28
<input checked="" type="checkbox"/> C欄の続きにも文献が列挙されている。 <input type="checkbox"/> パテントファミリーに関する別紙を参照。		
* 引用文献のカテゴリー 「A」 特に関連のある文献ではなく、一般的技術水準を示すもの 「E」 国際出願日前の出願または特許であるが、国際出願日以後に公表されたもの 「L」 優先権主張に疑義を提起する文献又は他の文献の発行日若しくは他の特別な理由を確立するために引用する文献 (理由を付す) 「O」 口頭による開示、使用、展示等に言及する文献 「P」 国際出願日前で、かつ優先権の主張の基礎となる出願日の後に公表された文献 「T」 国際出願日又は優先日後に公表された文献であって出願と矛盾するものではなく、発明の原理又は理論の理解のために引用するもの 「X」 特に関連のある文献であって、当該文献のみで発明の新規性又は進歩性がないと考えられるもの 「Y」 特に関連のある文献であって、当該文献と他の1以上の文献との、当業者にとって自明である組合せによって進歩性がないと考えられるもの 「&」 同一パテントファミリー文献		
国際調査を完了した日 09. 09. 03		国際調査報告の発送日 24.09.03
国際調査機関の名称及びあて先 日本国特許庁 (ISA/J P) 郵便番号100-8915 東京都千代田区霞が関三丁目4番3号		特許庁審査官 (権限のある職員) 八原 由美子 電話番号 03-3581-1101 内線 3451

C (続き) . 関連すると認められる文献		
引用文献の カテゴリー*	引用文献名 及び一部の箇所が関連するときは、その関連する箇所の表示	関連する 請求の範囲の番号
A	Atsushi Ikeda et al., Mixed Lineage Kinase LZK Forms a Functional Signaling Complex with JIP-1, a Scaffold Protein of the c-Jun NH ₂ -Terminal Kinase Pathway, J. Biochem., Vol.130, 2001, p.773-781	1, 3-4, 7-23, 27-28
A	Junji Yamauchi et al., Differential Regulation of Mitogen-activated Protein Kinase Kinase 4(MKK4) and 7(MKK7) by Signalin from G Protein $\beta \gamma$ Subunit in Human Embryonal Kidney 293 Cells, The Journal of Biological Chemistry, Vol.274, No. 4, 1999, p.1957-1966	1, 3-4, 7-23, 27-28
A	Zhengbin Yao et al., Activation of Stress-activated Protein Kinases/c-Jun N-terminal Protein Kinases(SAPKs/JNKs) by a Novel Mitogen-activated Protein Kinase Kinase(MKK7), The Journal of Biological Chemistry, Vol.272, No.51, 1997, p.32378-32383	1, 3-4, 7-23, 27-28
A	Cathy Tournier et al., The MKK7 Gene Encodes a Group of c-Jun NH ₂ -Terminal Kinase Kinases, Molecular and Cellular Biology, Vol.19, No.2, 1999, p.1569-1581	1, 3-4, 7-23, 27-28
A	Yi-Rong Chen et al., Mammalian c-Jun N-terminal kinase pathway and STE20-related kinases, Gene Ther. Mol. Biol., Vol.4, 1999, p.83-98	1, 3-4, 7-23, 27-28
A	Ippeita Dan et al., The Ste20 group kinases as regulators of MAP kinase cascades, TRENDS in Cell Biology, Vol.11, No.5, 2001, p.220-230	1, 3-4, 7-23, 27-28

第Ⅰ欄 請求の範囲の一部の調査ができないときの意見 (第1ページの2の続き)

法第8条第3項 (PCT 17条(2)(a)) の規定により、この国際調査報告は次の理由により請求の範囲の一部について作成しなかった。

1. ☒ 請求の範囲 2, 5-6, 24-26 は、この国際調査機関が調査をすることを要しない対象に係るものである。つまり、
請求の範囲 2, 5-6, 24-26 は、治療による人体の処置方法に関するものであって、PCT 17条(2)(a)(i) 及びPCT規則39.1(iv) の規定により、この国際調査機関が調査をすることを要しない対象に係るものである。
2. ☐ 請求の範囲 _____ は、有意義な国際調査をすることができる程度まで所定の要件を満たしていない国際出願の部分に係るものである。つまり、
3. ☐ 請求の範囲 _____ は、従属請求の範囲であってPCT規則6.4(a) の第2文及び第3文の規定に従って記載されていない。

第Ⅱ欄 発明の単一性が欠如しているときの意見 (第1ページの3の続き)

次に述べるようにこの国際出願に二以上の発明があるとこの国際調査機関は認めた。

請求の範囲1には、c-Junリン酸化の阻害剤に関し、「PAK4とMMK7の結合阻害」、「PAK4によるMMK7のリン酸化の阻害」、「JIKとMMK7の結合阻害」、あるいは「JIKによるMMK7のリン酸化の阻害」という「特別な技術的特徴」を有する4つの発明を包含し、これらの発明は、一又は二以上の同一又は対応する特別な技術的特徴を含む技術的な関係にないから、単一の一般的発明概念を形成するように連関しているものと認められない。

1. ☐ 出願人が必要な追加調査手数料をすべて期間内に納付したので、この国際調査報告は、すべての調査可能な請求の範囲について作成した。
2. ☒ 追加調査手数料を要求するまでもなく、すべての調査可能な請求の範囲について調査することができたので、追加調査手数料の納付を求めなかった。
3. ☐ 出願人が必要な追加調査手数料を一部のみしか期間内に納付しなかったので、この国際調査報告は、手数料の納付のあった次の請求の範囲のみについて作成した。
4. ☐ 出願人が必要な追加調査手数料を期間内に納付しなかったので、この国際調査報告は、請求の範囲の最初に記載されている発明に係る次の請求の範囲について作成した。

追加調査手数料の異議の申立てに関する注意

- ☐ 追加調査手数料の納付と共に出願人から異議申立てがあった。
☐ 追加調査手数料の納付と共に出願人から異議申立てがなかった。

請求の範囲1, 3-4, 7-23, 27-28は、「PAK4とMMK7の結合阻害」、「PAK4によるMMK7のリン酸化の阻害」、「JIKとMMK7の結合阻害」、あるいは「JIKによるMMK7のリン酸化の阻害」という所望の性質により定義された化合物を有効成分とするc-Junリン酸化の阻害剤に関するものである。そして、請求の範囲1, 3-4, 7-23, 27-28は、そのような性質を有するあらゆる化合物を包含するものであるが、PCT6条の意味において明細書に裏付けられ、また、PCT5条の意味において開示されているのは、クレームされた化合物のごくわずかな部分にすぎないものと認められる。

また、「PAK4とMMK7の結合阻害活性」、「PAK4によるMMK7のリン酸化の阻害活性」、「JIKとMMK7の結合阻害活性」、あるいは「JIKによるMMK7のリン酸化の阻害活性」を有する化合物は、出願時の技術常識を勘案してもそのような性質を有する化合物の範囲を特定できないから、請求の範囲1, 3-4, 7-23, 27-28は、PCT6条における明確性の要件も欠いている。